

平成20年度 経済産業省委託事業

---

**平成20年度サービスイノベーション創出支援事業**  
**（サービス産業能力評価システム構築支援事業）**  
**－高度予防医療ビジネスに関する調査研究 報告書－**

2009年3月

---

株式会社野村総合研究所

# 目次

---

1.本調査の目的

2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

# 1.本調査の目的

---

## 背景

- 我が国では、2008年4月から、「高齢者の医療の確保に関する法律」により、40歳以上75歳未満の国民への健診実施が義務付けられた。
- この法律により、医療保険者(区市町村国保、健保組合等)は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)の早期発見を目的とした健康診査(特定健康診査)や、それに伴う保健指導(特定保健指導)を40歳以上75歳未満の国民に実施するよう義務付けられた。これに伴い、国民の間でも予防医療に対する関心やニーズが高まっている。
- 日本の医療技術は世界的に進んでいる点が多いため、高度予防医療は今後訪日外国人数の増加に貢献する可能性が高いと考えられる。



## 目的

- サービス産業は、無形性(目に見えない)や同時性(提供と同時に消滅)等の特徴を持ち、サービスそのものの海外輸出は困難であると考えられている。しかし、我が国で提供されるサービスを求めて海外から顧客が訪日すれば、「サービス産業の海外展開」と同等の意義を有すこととなり、国際的にも我が国のサービス産業の付加価値の高さを示すことができる。
- このように、我が国の高度予防医療産業は、国民への健診義務付けという制度改正により今後成長が期待できる一方、サービス産業のグローバル展開という観点からも、高度予防医療ビジネスは今後我が国が着目すべきテーマであるといえる。
- 上記の理由により、我が国の高度予防医療ビジネスに関わる人材活用・人材育成調査を実施した。

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

#### ①メディカル・ツーリズムに関わる政策

---

##### ■「メディカル・ハブ」政策

- タイ政府では、自国をアジアの健康の中枢にする奨励計画を掲げており、近代的な設備・技術を備えた病院の確保によりアジア最高の治療及び健康増進サービスを提供することを目標にしている。
- 2004年、タイ政府は「メディカル・ハブ」となるための政策目標を策定した。

##### ■外国人患者の受入実態

- タイ政府観光庁によると、受け入れた外国人患者数は、2005年に128万人、2006年には140万人となり約14%増加している。2008年には、145万人の外国人患者が見込まれている。
- 2005年における外国人患者のタイにおける支出総額は約33billionタイバーツ(約1,150億円)に及ぶ(タイ政府観光庁HP内「Medical Tourism In Thailand」による(①))。
- タイ政府は、日本と中東の患者を重要なターゲットとして位置づけている( Kasikorn Research Center(民間研究所)による(②))。

(出所)

(①) <http://www.tourismthailand.org/interesting-article/content-308-1.html>

(②) [http://www.kasikornresearch.com/portal/site/KResearch/rsh\\_d/?id=9504&cid=10](http://www.kasikornresearch.com/portal/site/KResearch/rsh_d/?id=9504&cid=10)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(1)

#### ■ Bangkok Hospital Medical Center(バンコク病院医療センター)

- バンコク病院グループ(東南アジア最大の私立病院ネットワークのデュシット・グループが経営)に属する中核施設。バンコク病院グループは、タイ国内18ヶ所、カンボジア3ヶ所、バングラデシュ3ヶ所、ベトナム2ヶ所、ミャンマー2ヶ所に病院を保有。
- Bangkok Hospital Medical Center(BMC)は、JCI認定を取得したバンコク病院、バンコク国際病院、バンコク心臓病院、ワタノソット癌病院を所有。

#### ■ Samitivej Hospital(サミティベート病院)

- JCI認定を取得したサミティベート・スクムビット病院、サミティベート・シーナカリン病院、サミティベート・シーラチャー病院を所有。

#### メディカルツーリズムに利用されている主な病院

医療グループ	病院名	JCI認定
Bangkok Hospital Medical Center (バンコク病院医療センター)	バンコク病院(BH)	○
	バンコク国際病院(BIH)	○
	バンコク心臓病院(BHH)	○
	ワタノソット癌病院(WH)	○
Samitivej Hospital (サミティベート病院)	サミティベート・スクムビット病院	○
	サミティベート・シーナカリン病院	○
	サミティベート・シーラチャー病院	○
その他	バンコク・ナーシングホーム病院(BNH)	
	バムルンラード国際病院	○
	バンコク病院プーケット プーケット国際病院	

(注)サンテンによるヒアリング調査実施

(出所)サンテン調査、JCIホームページ、各病院ホームページ、医薬経済社「メディカルツーリズム」(2008年)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(2)

(出所)

- ①: サンテン調査
- ②: バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビュー
- ③: バンコク病院パンフレット(2007年7月発行)
- ④: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Bumrungrad International (バムルンラード国際病院)	Bangkok Hospital (バンコク病院)	Bangkok International Hospital (バンコク国際病院)
一般	形態(国公立/民間、大学付属、総合/専門、等)	・民間病院(①) ・グループ病院として、フィリピン、シンガポールに2施設を保有。(①)	・民間病院(タイで最初の民間病院(③)) ・バンコク病院グループ(タイ国内18ヶ所、カンボジア3ヶ所、バングラデシュ2ヶ所、ベトナム2ヶ所、ミャンマー2ヶ所)に所属。グループの中核であるBangkok Hospital Medical Center(BMC)の1施設で、中心となる施設。(①)	・バンコク病院グループ(タイ国内19ヶ所、海外2ヶ所)に所属。グループの中核であるBangkok Hospital Medical Center(BMC)の1施設。(②)
	設立年	1980年(④)	1972年(④)	2004年(③)
	所在地	33 Sukhumvit 3, Wattana, Bangkok 10110 Thailand (④)	2 Soi Soonvijai 7, New Petchburi Rd., Bangkok, Thailand 10310 (④)	
	病床数	458床(稼動中)、残りの病床は改装中(①)	500床(全室個室)、そのうち集中治療室100床(①)	400床保有、350床稼動(②)
	患者数	・2006年120万人、2007年120万人、2008年110万人(①)	・外来合計687,616人、入院23,220人(2006年)(①) ・そのうち、外国人患者は外来115,241人、入院4,404人(2006年)(①)	

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(3)

(出所)

- ①: サンテン調査
- ②: バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビュー
- ③: バンコク病院パンフレット(2007年7月発行)
- ④: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Bumrungrad International (バムルンラード国際病院)	Bangkok Hospital (バンコク病院)
一般	診療科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー、プレスト・ケア、小児科、歯科、糖尿病、診断および治療、透析、消化器疾患、耳鼻咽喉、救急、眼科、アイ・レーザー屈折、不妊治療、健康診断、心臓専門、ホライズン癌症、一般内科クリニック、神経外科、整形外科、形成外科、リハビリ、スキン、スキン・レーザー、睡眠障害、外科クリニック、婦人科を設置。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳神経、神経外科、健康促進、泌尿器、眼科、耳鼻咽喉科、呼吸器、アレルギー・喘息、腎臓・透析、リハビリ、皮膚科・美容、歯科、消化器・肝臓、高圧酸素療法、ゴルフヘルス、整形外科、小児健康、内科、外科、産婦人科を設置し、臓器移植手術以外の全ての治療に対応。(①)</li> <li>・30強の専門外来科を持ち、一般的な診療以外に心臓バイパス、カテーテル、脳血管系疾患、ガンマナイフ治療、ノバルスを用いた治療を実施。重篤患者に対応するための集中治療(ICU、CCU、RCU、NICU)にも対応し、第三次救急指定病院に指定。(③)</li> <li>・心疾患、脳疾患、癌、糖尿病に注力。(①)</li> <li>・健診パックとして、健康診断パックと特別健診パック(ロングステイヤー)の2種類を設置(特別健診パック(ロングステイヤー)は通常の健診パックより肝機能、腫瘍、糖尿病等についての検査項目を多く設置)。(①)</li> </ul>
	主要な治療費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断パッケージ: Regular2,600バーツ、Executive男性6,300バーツ、7,500バーツなど(④)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋代: 約5,800~14,000バーツ(部屋、看護料、食事、ルームサービス費含む)(③)</li> <li>・健康診断: 30歳以下成人の一般プログラム3,700バーツ、31歳以上15,800バーツ(胃カメラ含む)、バリウム検査6,800~11,500バーツ(③)</li> <li>・手術: 冠状動脈バイパス手術480,000バーツ(ステント除く)、経皮的冠動脈形成術(PTCA)175,000バーツなど(③)</li> <li>・産婦人科系: 自然分娩38,000バーツ、帝王切開56,000バーツ、腹腔鏡下腔式子宮摘出術120,000バーツなど(③)</li> <li>・医療サービスの価格は日本と同等か、やや高めという意見もあれば、日本のほぼ半分の水準であるという意見もあり。(①、②)</li> </ul>
	施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MRI2台、CT2台、PET/CT1台、マンモグラフィ3台を所有。(①)</li> <li>・レストラン(タイ・中華・イタリア・日本・バングラデシュ・インドハラール料理)、カフェ(スターバックス、マクドナルド)を設置。そのほか、タイ・中華・日本料理などのルームサービスも24時間可能。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車15台(そのうち集中治療完備4台)、救急バイク3台、ヘリコプター1機、MRI2台、MRA2台、CT2台、核医学診断装置1台(PET/CT、SPECT)、PACS1台、超音波診断装置10台、マンモグラフィ2台を所有。(①)</li> <li>・PET/CT、ノバルス(立体的放射線癌治療)をタイで初めて導入、3D64スライスCT、3ステラMRI、心臓外科ロボットダヴィンチ、ステムセル(幹細胞)治療、カプセル内視鏡など、最新の医療機器・技術を導入。(③)</li> <li>・病院臭を発生させないため、高品質な消毒液を使用。(①)</li> <li>・レストラン(日本・アラブ・タイ料理)、カフェ(スターバックスなど)、コンビニ、医療機器販売店を設置。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(4)

(出所)

- ①: サンテン調査
- ②: バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビュー
- ③: バンコク病院パンフレット(2007年7月発行)
- ④: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Bumrungrad International (バムルンロード国際病院)	Bangkok Hospital (バンコク病院)	Bangkok International Hospital (バンコク国際病院)
一般	特徴(医療設備・施設、取得している認証など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JCI (国際合同委員会)、Institute of Hospital Quality Improvement &amp; Accreditation認定プログラムを取得。(①)</li> <li>・オンライン予約、医師検索システムあり。(①)</li> <li>・予約患者に対して、事前に携帯電話に予約確認メールを送信。(①)</li> <li>・カルテの電子化を実施し、グループや系列を問わず、国外病院とカルテなどの患者情報を共有。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JCI (国際合同委員会)、ISO9002、TISI 基準認定、OHSAS18001を取得。(①)</li> <li>・オンライン予約、医師検索システムあり。(①)</li> <li>・カルテの電子化を実施。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ国内の認証の他、ISO、JCI(国際合同委員会)も取得。(②)</li> <li>・脳卒中、心不全、乳がんの手術のDCSC(JCIにある、特定のサービスの質を認定する認証)を取得。(②)</li> <li>・東南アジアで初めて医療専用のヘリコプターを導入。(②)</li> </ul>
	スタッフ (数、国籍)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師及び歯科医1,000人以上(常勤200人程度)、看護師900人、コメディカル600人。(①)</li> <li>・医師は全てタイ人(日本人のハーフも存在)、スタッフも基本的にはタイ人。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師650人(常勤300人弱、非常勤350人)、看護師600人、薬剤師・コメディカル300人、一般職員700人、その他契約社員、アルバイトも多く存在。(①)</li> <li>・スタッフの国籍は、タイのほか、日本、韓国、バングラデシュ、中国、ベトナム、イギリス、カンボジア、オランダ、ドイツ、デンマーク、エチオピア、ミャンマー等。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師が575名、歯科医師が100名。(②)</li> <li>・フルタイムが40%(267人)、パートタイムが60%(402人)。(②)</li> </ul>
	スタッフ採用、教育・研修制度など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師のヘッドハンティングを実施(個人の引き抜きと、医療チームの引き抜きの2種類あり)。(①)</li> <li>・研修制度あり。また、院内に教育部を所有し、カリキュラムを細かく設定。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドハンティングを実施。(①)</li> <li>・研修制度あり(基本的に部門毎で毎年カリキュラムを組み、100時間の中で語学、文化、生活習慣を研修)。(①)</li> <li>・タイ語以外の言語を使うスタッフは、年間100時間の語学研修と文化・生活習慣の研修が必須。(①)</li> <li>・ホスピタリティの質向上のためのオリエンタルホテルの現地見学や、院内でのホスピタリティ研修を実施。(①)</li> </ul>	

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(5)

(出所)

- ①: サンテン調査
- ②: バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビュー
- ③: バンコク病院パンフレット(2007年7月発行)
- ④: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Bumrungrad International (バムルンラード国際病院)	Bangkok Hospital (バンコク病院)	Bangkok International Hospital (バンコク国際病院)
メディカル ツーリズム	外国人受診者へ提供する医療サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診内に、VIP用ラウンジ、バイタルサインユニット、視力検査機器、血液検査室、心電図、心エコー図、運動負荷試験、骨盤検査等を整備。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人に対する健診は、JMS部でスクリーニング、検尿、身長、体重、視力、血圧を測定した後、健康診断(増進)で各健診プログラムを実施。(①)</li> <li>・最近JMS部の新設プログラムでメタボ検診(血液検査、血圧、腹囲、診察、管理ノート進呈)2,200パーツを実施。(①)</li> </ul>	
	外国人受診者の特徴 (数・国別の受診率など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数の4割が外国人(2008年)。(①)</li> <li>・割合の高い順に、アメリカ人、アラブ人、日本人、バングラデシュ人、オマーン人、イギリス人。(①)</li> <li>・日本人患者の8割は在タイ日本人、残り2割のうちほとんどがタイ周辺地域に在住している日本人。(①)</li> <li>・日本人患者の5割が健診目的、残りの5割が外来や入院目的により来院。(①)</li> <li>・アメリカ人患者の5割、アラブ・オマーン人患者の9割がメディカルツーリスト。(①)</li> <li>・アラブ人は健診を受診する外国人患者の中で最も高い割合。(①)</li> <li>・中東、北米、フランス、イギリス、エチオピア、モンゴルからの患者数が増加傾向。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数の4割が外国人(2008年)。今後は約半分を外国人患者が占めると予想。(①)</li> <li>・割合の高い順に、アラブ人(3~4割)、日本人、アメリカ人、イギリス人、インド人、フランス人。(①)</li> <li>・日本人患者の9割は在タイ日本人。(①)</li> <li>・今後、モルディブ人、バングラデシュ人等にも拡充予定。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数の2割が外国人(タイ人が80%(59万人)、外国人が20%(15万人))。(②)</li> <li>・患者の国籍は、日本・UAEが各4分の1、その他カタール、ミャンマー、アメリカ、オマーン、カンボジア、インド、バングラデシュ、イギリス、中国、韓国、カナダ、オーストラリアなど。近年は、エチオピアからの患者が増加傾向。(②)</li> <li>・外国人患者の8割はメディカルツーリスト、残りの2割はタイ在住か、タイ観光客。(②)</li> </ul>
	外国人受診者の平均受診費用	(情報非公開) (①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質単価として、日本人患者は外来4,000パーツ、入院145,000パーツ、入外平均で7,000パーツ(①)</li> <li>・アラブ人患者は入院560,000パーツ(重篤患者が多い) (①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入全体のうち、外国人の診療費によるものは約4割。(②)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(6)

(出所)

- ①: サンテン調査
- ②: バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビュー
- ③: バンコク病院パンフレット(2007年7月発行)
- ④: 各病院ホームページ

病院名 (医療グループ名)	Bumrungrad International (バムルンラード国際病院)	Bangkok Hospital (バンコク病院)	Bangkok International Hospital (バンコク国際病院)
チャンネル、プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・25か国に海外事務所を設置し、病院の紹介及び予約受付の実施。(①)</li> <li>・マーケティング部門を設置。新聞、テレビ、看板広告、ウェブでのプロモーションのほか、プロモーション活動の一環として、糖尿病、メタボセミナー(料理教室実施)などのセミナーや、インターナショナルスクールの運動会等における看護師の治療等の無料サービスの実施。(①)</li> <li>・ホームページは3ヶ国語(タイ語、英語、日本語)に対応。(④)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バングラデシュ、モルディブ等5~6カ国のエージェントと提携。エージェントの種類は、旅行会社、政府関係者、ヨーロッパ諸国の場合は保険会社・アシスタント会社など。(①)</li> <li>・各外国人部門に4名程度のマーケティングチームを設置。また、日本人患者向けに年間400万パーツ程度のプロモーション予算を確保。(①)</li> <li>・新聞、テレビによる宣伝のほか、クレジット会社とのタイアップ、スポーツイベントへのスポンサー活動を実施。(①)</li> <li>・病院紹介ビデオあり。(②)</li> <li>・ホームページは8ヶ国語(タイ語、英語、日本語、中国語、ドイツ語、オランダ語、韓国語など)に対応。(④)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中の多くの保険会社と連携(東京海上日動、AIG、AXAなど)。(②)</li> </ul>
外国人受診者対応の工夫(ハード面)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院内に旅行代理店ブースを設置(病院直営ではなくテナント)するほか、有料送迎サービスも実施。(①)</li> <li>・スワンナプーム国際空港に病院の窓口を設置。(①)</li> <li>・ビザの延長サービス(有料)の窓口を設置。(①)</li> <li>・患者や付き添いのため有料サービスアパートや高級サービスアパート(フィットネス、スイミングなどの施設完備)を設置。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の付き添いのための有料サービスアパート40部屋を設置。(①)</li> <li>・外国語に対応したオンライン予約を実施。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザセクションを設置。(②)</li> <li>・患者の付き添いのためのツアーエージェントのほか、サービスアパートも約30部屋設置。(②)</li> <li>・アラブ人のための礼拝部屋を設置。(②)</li> </ul>
外国人受診者対応の工夫(ソフト面)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14ヶ国語(英語、タイ語、アラブ語、ベンガル語、カンボジア語、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、ベトナム語、エチオピア語、モンゴル語、ビルマ(ミャンマー)語)に対応。アラブ語の通訳を最も多く設置しており、日本語の通訳も15名設置(うち日本人1名)。(①)</li> <li>・食事サービスに注力し、グレートシェフという月替わりのメニューを用意(各ホテルのレストランのレシピを用い院内の厨房で調理)。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳を80名程度設置。カスタマーサービスも行う「医療通訳」と、ビザサポートや搬送チーム等のアレンジも行う患者専属の「医療通訳コーディネータ」の2種類を設置。(①)</li> <li>・25か国語に対応(アラブ語対応40人、日本語対応20人、トライリンガル等も多い)。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語、タイ語、日本語、アラブ語の4つの言語を基本言語とし、病院内のサインは全て4つの言語で表示。(②)</li> <li>・12カ国の通訳を設置。(②)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 1)タイ

### ③メディカル・ツーリズムの特徴

---

#### (1)外国人患者向けの充実した付帯設備・サービス

- 株式会社による病院経営が一般化しており、各病院が外国人患者へのきめ細かいサポートを行っている。

(付帯設備)

- 病院のエントランスは、ホテルのロビーのような豪華な内装になっている。
- 幅広い国の食事メニューに対応したレストランや、スターバックスなどのカフェを設置している。バムルンラード国際病院では、6ヶ国の料理に対応している。
- 患者・付き添い用の宿泊施設を設置するほか、ビザの更新窓口や、旅行代理店ブースを設置している。バンコク病院では、通常の宿泊施設のほか、患者の付き添い用にフィットネスやプールを備えた高級宿泊施設を設置している。
- そのほか、バンコク病院では、アラブ人のための礼拝部屋を設置している。

(付帯サービス)

- 幅広い言語に対応した通訳を設置している。バンコク病院では、カスタマーサービスも行う「医療通訳」と、ビザサポートや搬送チーム等のアレンジも行う患者専属の「医療通訳コーディネータ」の2種類を設置しており、26ヶ国の言語に対応している。
- そのほか、バンコク病院では、病院臭を発生させないために高品質な消毒液を使用している。

#### (2)スタッフの高いホスピタリティや充実した言語対応

- スタッフ向けの研修制度が充実している。
  - バムルンラード国際病院では、院内に教育部が設置されており、カリキュラムが細かく設定されている。
  - バンコク病院では、タイ語以外を用いるスタッフ向けに年間100時間の語学研修と生活・文化研修の受講が必須となっているほか、ホスピタリティ研修としてオリエンタルホテルの現地見学を実施している。
- また、バンコク病院では、幅広い国籍のスタッフを配置している(タイ、日本、韓国、バングラデシュ、中国、ベトナム、イギリス、カンボジア、オランダ、ドイツ、デンマーク、エチオピア、ミャンマー等)。

#### (3)低価格な医療費

- タイ国内の医療費は他国と比べ格安である。
  - タイ国内の医療費は、シンガポールの医療費の約3分の2、ヨーロッパの約2分の1、アメリカの約10分の1である。

#### (4)グローバル認証の取得

- 各病院が、プロモーション活動の一環として、JCI認定の取得を積極的に行っている。

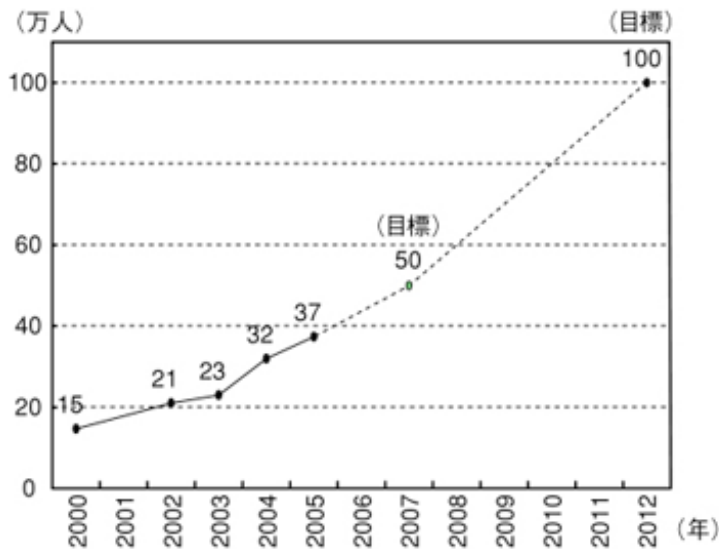
## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ①メディカル・ツーリズムに関わる政策

- 2003年、政府と医療業界が一体となって「シンガポール・メディカル構想」を立ち上げ、ヘルスケア産業への新規投資の促進や外国の患者の移送チャネルの整備等を通じ、メディカル・ハブ(医療分野の中核拠点)の地位獲得に向けて取組を強化することを政策として掲げている。
- 2005年までの外国人患者受入数は37万人。上記「シンガポール・メディカル構想」では、2012年にはこれらの患者を100万人にまで増やし、30億シンガポール・ドル(約2,200億円)の市場に成長させることを目標としている。

図表 シンガポールにおける外国人患者受け入れ数の推移



(資料)シンガポール経済開発庁Webサイトから作成。

(出所)経済産業省「通商白書2007」

図表 Singapore Medical 構想のホームページ

Figure showing the Singapore Medical homepage layout, including navigation, search, and promotional content.

(出所) <http://www.singaporemedicine.com/>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(1)

##### ■ National Healthcare Group(ナショナル・ヘルスケア・グループ)

- シンガポールの公的医療のリーダー的存在。医学的な専門技術と施設の質の高さが内外に広く認知されている。2005年に、シンガポールの病院グループとしてJCIの認証を初めて取得。
- 人間ドックから高度医療や医学研究まで、様々な医療サービスを提供。
- メディカルツーリストの窓口として、国際患者連絡センター(IPLC)を設置。

##### ■ Parkway Group Healthcare(パークウェイグループ・ヘルスケア)

- アジアの巨大民間医療団体。パークウェイホールディングス有限会社の子会社。シンガポール国内で病院や医療施設を統合した大きなネットワークを持つ。

##### ■ Singapore Health Services(シンガポール・ヘルス・サービス)

- シンガポール最大の民間医療グループ。診療科目は40にも渡り、3つの病院と5つの国立専門センターを保有。
- JCIの認証を取得した病院として、アジア最大、世界でも2番目の規模を持つシンガポール総合病院を保有。
- 東南アジア、インド、中東において、病院の経営管理のコンサルティングも実施。

##### メディカルツーリズムに利用されている主な病院

医療グループ	病院名	JCI認定
National Healthcare Group (NHG) (ナショナル・ヘルスケア・グループ)	アレクサンドラ病院	○
	国立大学病院	○
	タン・トク・セン病院	○
	精神保健研究所、ウッドブリッジ病院	○
	国立皮膚センター	○
Parkway Group Healthcare (パークウェイグループ・ヘルスケア)	イーストシヨア病院	○
	グレニーグルズ病院	○
	マウント・エリザベス病院	○
Singapore Health Services (シンガポール・ヘルス・サービス)	チャンギ総合病院	○
	KK婦人・小児病院	○
	シンガポール総合病院	○
	国立心臓センター	○
その他	ジョンズ・ホプキンス・シンガポール国際医療センター	○
	パシフィック・ヘルスケア	

(注) サンテンによるヒアリング調査実施

(出所) JCIホームページ、医薬経済社「メディカルツーリズム」(2008年)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(2)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
一般	形態(国公立/民間、大学付属、総合/専門、等)	・香港・インド・中国に合計100箇所以上のグループ医療機関を保有。 (①)	・シンガポール唯一の大学病院。(②) ・National Healthcare Group(政府運営)に所属。(②)
	設立年	2001年(②)	1985年(②)
	所在地	290 Orchard Road, #12-01, Paragon, Singapore 238859 (MD Specialist Healthcare) (②)	5 Lower Kent Ridge Road Singapore 119074 (②)
	病床数	外来クリニックのため入院機能なし(①)	975床(①)
	患者数	100,000人以上(2008年)(①)	・外来約610,000人、入院約55,000人(2007年度)(①) ・日帰り手術26,000件以上、救急110,000件以上(2007年度)(①)
	年間売上高	・グループ全体2005年度約48億円、2006年度約64億円、2007年度約74億円 ・シンガポール国内における売上高約68億円、国外の売上高約6億円(2007年度)(①)	

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(3)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
一般	診療科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容形成(日帰り手術実施)、ヘルス&amp;ウェルネス(心臓科、神経科、精神科)、頭部(耳鼻咽喉科)、外科(消化器系、血管系、整形外科、泌尿器科)、女性健康管理(産婦人科)、歯科。(①)</li> <li>・美容形成、産婦人科、心臓に注力。(①)</li> <li>・救急外来は対応せず。(①)</li> <li>・健診パックあり。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス: 22クリニック、3歯科、6パラメディカル、4専門センター、1看護部門。(①)</li> <li>・外来: 32外来専門クリニック(小児、整形外科、産科、婦人科、眼科、心臓外科、糖尿病、歯科、放射線治療、骨髄移植、女性クリニック、Head&amp;Neck、形成外科、鍼療法など)。(①)</li> <li>・24時間対応サービス(心臓発作、喘息、外傷、16歳以下の小児など)。(①)</li> <li>・肝移植、脳神経などを取り扱う最高レベルの病院。(①)</li> <li>・心臓移植を実施。また、心臓病と癌治療に注力。(①)</li> </ul>
	主要な治療費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性用基本健診300ドル、女性用包括健診450ドル、女性18～25歳用健診250ドル、妊婦健診380ドル。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーシック: 片目S\$1,275(約78,000円)。(①)</li> <li>・入院: 基本デラックスS\$410(約25,000円)、基本AクラスS\$260(約16,000円)、基本A2クラスS\$196(約12,000円)、基本B1クラスS\$164(約10,000円)、基本B2クラスS\$55(約3,400円)、基本CクラスS\$29(約1,800円)。(①)</li> <li>・看護師: デラックス～B1までS\$60(約3,700円)、B2クラスS\$15(約1,000円)、CクラスS\$10(約600円)。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(4)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
一般	施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CT1台、MRI1台、マンモグラフィ1台を保有。PETは2年後を目処に導入予定。(①)</li> <li>・医療機器の充実よりも、良い医師の確保を重要視。(①)</li> <li>・受付に子供用ゲームやコーヒーサービス、インターネットサービスなどがあり、明るく開放的なつくりを設定。(①)</li> <li>・センターごと(歯科、美容形成、心臓など)に数名着席可能な待合室や個室待合室を設置。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CT3台、MRI2台、リニアアクセラレーター(癌用)2台、超音波77台、X線24台、放射線治療6台(心臓病用)保有。(①)</li> <li>・入院用: デラックススイート(個室)、Aクラス(個室)、B1クラス(4ベッド)、B2クラス(6ベッド: 助成金対象患者)、Cクラス(8ベッド: 助成金対象患者)あり。(①)</li> <li>・郵便局、薬局、Health and U Retail Outlet、Casablanca Florist、Artificial Limbs and Aids Centre、フードコート、セブンイレブン、ギフトセンター、本屋などがあり。(①)</li> <li>・入院患者への食事は、中華、イスラム、西洋、ベジタリアンの4種類あり。(①)</li> </ul>
	特徴(医療設備・施設、取得している認証など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富裕層を主要ターゲットに設定。(①)</li> <li>・ホームページ上での医師検索システムあり。(①)</li> <li>・カルテの電子化は実施せず(医師の反発が多いため)。(①)</li> <li>・企業向け健診を実施(基本健診、メンタル、健康相談、予防接種など)。(①)</li> <li>・JCI、ISOの取得準備中。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン予約、医師検索システムあり。(①)</li> <li>・カルテの電子化は実施せず。(①)</li> <li>・院内システムの電子化は進行中。IT化の費用は保健省より補助金拠出。(①)</li> <li>・JCI認定(2004年。シンガポールで初)、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001を取得。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(5)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
一般	スタッフ(数、国籍)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師は約100名であり、全て専門医。(①)</li> <li>・形成外科に有名な医師を採用。(①)</li> <li>・スタッフ数はグループ内で約700名。そのうちシンガポール人が約400名(外国人の雇用比率は保健省より設定)外国人はアメリカ人など。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ数は4,799名。医師約800名、看護師約2,400名、コメディカル約700名、受付約800名、事務管理約300名。(①)</li> <li>・スタッフの約2割が海外国籍。(①)</li> <li>・医師の平均年収は、最も高い場合250,000ドル、平均勤続年数は約3年。(①)</li> </ul>
	スタッフ採用、教育・研修制度など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の充実より優秀な医師の採用を重視する方針。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師採用のため、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどを対象に、現地のメディカルジャーナルなどの専門誌に採用広告を掲載。(①)</li> <li>・スタッフはサイト上での職種別採用実施。(①)</li> <li>・ASEAN諸国より研修医の受入実施。(①)</li> <li>・(特に医師に対する)院内研修制度が充実。(①)</li> <li>・小児がん病棟の看護師にはセントジュード病院(小児癌治療成功率92%で世界2位)で4ヶ月の教育後、保健省で認定されている院内研修を実施。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(6)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
メディカル ツーリズム	外国人受診者へ提供する医療サービス	・国内患者と同様の医療サービスを提供。(①)	・国内患者と同様の医療サービスを提供。(①)
	外国人受診者の特徴 (数・国別の受診率など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数の55%が外国人。(①)</li> <li>・インドネシア人の富裕層が最も多い。ロシア人も存在。(①)</li> <li>・外国人患者の18%がメディカルツーリスト。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人患者数は年間約75,000人。(①)</li> <li>・イラン、サウジアラビア、中国からの患者が高い割合。(①)</li> <li>・医療技術の高さを目的としての来院が主(成功率を公表)。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要(7)

(出所)

①: サンテン調査

②: 各病院ホームページ

	病院名 (医療グループ名)	Pacific Healthcare Holdings (パシフィック・ヘルスケア)	National University Hospital (NUH) (国立大学病院)
メ デ ィ カ ル ツ ー リ ズ ム	外国人受診者の平均 受診費用	・患者のケースによる(最大1回1,000S\$=約64,000円)。(①)	
	チャンネル、プロモ ーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、ウェブでのプロモーションのほか、現地の旅行代理店との提携による集客を実施。(①)</li> <li>・国際会議でのプロモーションを実施。(①)</li> <li>・シンガポール・メディシン・キャンペーンを最重要視。(①)</li> <li>・有名な医師を抱えるため、その医師を指名して来院する患者も存在。(①)</li> <li>・企業との契約あり。企業でのセミナー実施。(①)</li> <li>・ジャカルタに事務所を保有。(①)</li> <li>・マウントエリザベス病院と提携し、重篤患者を紹介。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院紹介ビデオクリップ、企業パンフレット、過去実績ハイライト、ニュースレター(四半期ごと)によるプロモーション実施。(①)</li> <li>・プロモーション活動は、積極的に行っていない。ソフトアプローチとして、治療結果(成功率)をサイトやローカル出版雑誌に公開している程度。(①)</li> <li>・アメリカのセントジュード病院と提携(NUHは小児癌治療成功率89%で世界3位)。(①)</li> </ul>
	外国人受診者対応の 工夫 (ソフト面)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般スタッフが各言語別に約1名担当として対応。対応できない言語の場合は通訳のアウトソースにより対応。(①)</li> <li>・各センターに受付担当スタッフを2~3名配置し、ホテルの宿泊予約など患者のニーズに対応。対応できない場合はアウトソースにより対応。(①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空券手配、通訳、旅行、等の手配サービスあり。(①)</li> <li>・バトラーサービス(裁縫、タクシー予約、洗髪、アイロンかけ、洗濯、靴みがき)あり。(①)</li> </ul>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 2)シンガポール

#### ③メディカル・ツーリズムの特徴

---

##### (1)医師の高い技術レベル

- 優秀な医師の採用を国内外問わず積極的に行っている。
  - 国立大学病院では、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド等を対象として、現地のメディカルジャーナル等の専門誌に採用広告を掲載している。
  - パシフィック・ヘルスケアでは、形成外科で著名な医師を採用しており、その医師を指名して海外から患者が多く来院している。
- 医師の研修・育成体制が充実している。
  - 国立大学病院では、アメリカのセントジュード病院(小児癌治療率世界2位)へ、医師の研修派遣を行っている。

##### (2)グローバル認証の取得

- 9病院と3つのメディカルセンターがJCI認証を取得しており、アジア地域のJCI認証取得病院の約3分の1を占有している。

##### (3)国を主導としたメディカル・ツーリズムのPR実施

- シンガポールの観光省が各病院と連携し、アジアのメディカル・ハブ(医療分野の中核拠点)となるためのPR活動を実施している。

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

#### ①アメリカにおける医療の特徴

---

##### (1)規模のメリットを活かした最先端・高度医療技術の提供の実現

- 大規模な病院が、各州に1つ以上存在する。そのような病院は、機能や人を集約させているため、あらゆる疾患に対応できるなど、高度かつ充実した医療を提供できる体制が整っている。
- 深夜であっても専門の医師が対応できるような体制を整えており、いつでも一定以上の医療の質が保障されている。
- 提供されている最先端・高度医療技術や充実した教育体制を求め、世界各地より優秀な医師が集まってきている。

##### (2)富裕層向けの医療サービス提供体制の充実

- 病院の規模が大きいことから、一般患者へのサービス提供とは別に、富裕層を対象としたサービスを提供できる体制が整っている(一般患者と富裕層患者の2層構造の実現)。
- 富裕層向けのサービスが充実している。
  - ・ 空港でのコンシェルジュサービス(お出迎え、税関での手続きのサポート、空港から病院までの交通の手配、等)
  - ・ 高級ホテル並みの院内内装と専用フロアの設置
  - ・ 一般患者と動線が交わらないよう、専用の受付やエレベーターの設置 等
- 高度な医療技術と充実したサービスの提供により、富裕層の中でも上位の層が、治療等のために訪米している。

##### (3)効率を重視した医療経営の実現

- 医師と看護師とで徹底した分業体制を採り、医師には医師本来の業務のみに特化させることで、時間当たり単価を高めている。
- 多くの看護師を配置し、患者のリハビリ時間を増やすことで、患者の入院日数を短縮し、患者回転率の向上を実現している。
- CT等医療機器の稼働時間を長く設定することで、より多くの患者を診察できるようにしている。

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況




### 3)アメリカ

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (1)メイヨー・クリニック

##### ■ 病院の概要

- メイヨー・クリニックは、ロチェスター(ミネソタ)を中心に、ジャクソンビル(フロリダ)、スコットダール(アリゾナ)の3つの拠点で展開している。
- ミネソタのメイヨークリニックは、世界でも有数の総合医療施設。広大な敷地内には、30の施設、5つの駐車エリアがある。1,700人以上の医師がおり、専門分野は60以上に及ぶ。
- USニューズ&ワールド・レポート誌の「全米の優れた病院」2007年版において、2位にランクされている。
- 「The needs of the patient come」(患者が第一)をミッションに掲げる。

図表 各拠点の保有施設と病床数

拠点	保有施設	病床数
Mayo Clinic in Rochester, Minnesota 	《病院》 Mayo Clinic Campus、Mayo Hospitals、Rochester Methodist Hospital、 Saint Marys Hospital、Mayo Eugenio Litta Children's Hospital (Saint Marys Hospital内) 《教育センター》 Cancer Education Center、Patient Education Center	794床 (Rochester Methodist Hospital) 1,157床 (Saint Marys Hospital)
Mayo Clinic in Jacksonville, Florida 	《病院》 Mayo Clinic Hospital 《教育センター》 Cancer Education Center	214床
Mayo Clinic in Scottsdale, Phoenix, Arizona 	《病院》 Mayo Clinic、Mayo Clinic Specialty Building、Mayo Clinic Hospital、 Mayo Clinic Collaborative Research Building) 《教育センター》 Cancer Education Center	244床

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

## ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (1)メイヨー・クリニック

#### ■ 各種データ (2007年度)

- 患者数
  - ・ 総患者数(3拠点合計) 520,000人
  - ・ 入院患者数 135,000人
  - ・ 総入院日数 630,000日
- 人員数
  - ・ 医師 3,456人
  - ・ 研究員・研究生 3,229人
  - ・ スタッフ 48,229人
- 予算
  - ・ 患者からの医療収入 5,637.4百万ドル  
(うち、患者負担分) 293.7百万ドル
  - ・ 資産 4,308.8百万ドル
  - ・ 寄付 373 百万ドル
- 研究活動人員数
  - ・ 研究医理学研究者 354人
  - ・ 専門家 539人
  - ・ 研究補助 2,150人
- 研究資金
  - ・ 自己資金(寄付を含む) 346百万ドル
  - ・ 外部資金(政府、財団、企業) 364百万ドル

#### ■ 検診サービス

##### Executive Health Program(企業幹部向け)

- 多忙な企業幹部向けの1~2日間の便利な検診パッケージ。
- メイヨー・クリニックの内科、外科、研究の全てのリソースを活用した総合検診を提供(全身予防スクリーニングテスト、内科と予防医学の専門医による総合的検査、及び、適切な専門医への紹介、健康リスクとライフスタイル診断、栄養相談、等)。

##### Family medicine physicians(一般向け)

- 全ての年齢の患者を対象にした一般診療サービスの中で、各種検診サービスを提供(毎年の健康診断、予防治療、人間ドック(精密検査)、健康診断、女性的ケア(子宮頸管、骨盤、乳房検査)、X線検査、マンモグラフィー、骨密度測定、等)。

#### ■ 海外からの患者動向と海外患者向けサービス

- 長年に渡って培われた高度な医療を目的に、150カ国以上の国から患者とその家族が来院する。
- 海外からの患者に対するサービスが充実している。

##### フィナンシャルサービス

- ・ 国際会計担当者により、訪米前から滞在中、帰国後まで患者をサポート。保証金や支払いに関する情報提供、治療費の見積もり、保険会社との連絡、等のサービスを提供

##### 通訳サービス(無料)

- ・ アラビア語、スペイン語、フランス語等を含む30言語以上
- ・ 訪米前から帰国までの予約、受付、会計をマルチリンガルで対応
- ・ 専門的に訓練された医療通訳者が、診察に同席し、通訳をする

##### その他サービス(Mayo Clinic in Rochester, Minnesotaの例)

- ・ コンシェルジュサービス(コンシェルジュデスクにおける各種情報提供)
- ・ 旅行手続きサービス(航空機、宿泊、レンタカー予約、等)

(出所) Annual Report2007 (<http://www.mayoclinic.org/annualreport/>)  
Mayoclinic ホームページ (<http://www.mayoclinic.org/>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

## ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (2)テキサス・メディカル・センター

#### ■ 病院の概要

- テキサス・メディカル・センターは、テキサス州ヒューストンにあり、1つのエリアに47の医療関連機関が集中的に立地している。47の施設は、全て非営利団体であり、13の著名な病院、2つの専門機関、2つの医科大学、4つの看護学校等が含まれる。
- 疾病予防から、外科、小児科、がん治療、心臓治療、器官・臓器の移植に至るまで、幅広い医療サービスを提供。
- 世界で最も多くの心臓外科手術を実施している。また、病院間での移植プログラムを開発し、成功を収めている。
- 航空救急を初めて導入。

#### 47施設が集結するテキサス・メディカル・センター



(出所)テキサス・メディカル・センター ホームページ  
(<http://www.texmedctr.tmc.edu/root/en/GetToKnow/AboutTMC/About+the+TMC.htm>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

## ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (2)テキサス・メディカル・センター

図表 主な病院の概要

病院名	概要
M. D. Anderson Cancer Center M. D. アンダーソンがんセンター	あらゆるがんに対応するがん専門病院。「U.S. News & World Report」が選ぶベストホスピタルとして全米で常に1、2位に選ばれている。
Memorial Hermann Hospital メモリアル・ハーマン病院	テキサス・メディカルセンターに最初に設立された総合病院。緊急外傷サービスが有名。「U.S. News & World Report(2008)」が選ぶベストホスピタルとして、ハビリテーション部門で4位にランクインしている。
St. Luke's Episcopal Hospital セント・ルーク病院	心臓手術で高い評価を得る総合病院。「U.S. News & World Report」が選ぶベストホスピタルとして、心臓・心臓外科部門で18年間常にトップ10にランクインしている。
The Methodist Hospital メソヂスト病院	予防、診断、治療、フォローアップケアなど医療全域を手がける総合病院。「U.S. News & World Report(2008)」が選ぶベストホスピタルとして、12位にランクインしている。
Texas Children's Hospital テキサス小児科病院	国際的に高い評価を得ている総合小児病院。全米においても大規模な小児病院の1つである。「U.S. News & World Report」で、小児病院のトップ10に選ばれている。1954以来、50カ国以上、100万人以上の子供にサービスを提供している。



M. D. Anderson Cancer Center



Memorial Hermann Hospital



St. Luke's Episcopal Hospital



The Methodist Hospital



Texas Children's Hospital

(出所)テキサス・メディカル・センター ホームページ (<http://www.texmedctr.tmc.edu/root/en/GetToKnow/AboutTMC/About+the+TMC.htm>)  
メディアエゾン ホームページ (<http://www.mediaison.com/index.html>)  
各病院のホームページ

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (2)テキサス・メディカル・センター

##### ■ 各種データ(2007年)

- 病床数
  - ・ 病床数 6,500床
  - ・ 新生児用病床数 600床
- 患者数
  - ・ 外来患者数 5,500,000人
  - ・ 海外からの患者数 10,000人以上
- 人員数
  - ・ 医師 10,000人
  - ・ 医療スタッフ(看護師、技術者等) 26,000人
  - ・ 従業員数 73,600人
  - ・ ボランティア 13,500人
  - ・ M.D.s, Ph.D.s, その他のドクター 10,000人以上
  - ・ 学生 (フルタイム) 33,150人  
(パートタイム) 75,000人以上
- 研究資金 10億ドル

##### ■ 海外からの患者動向と海外患者向けサービス

- 海外患者向けに、センター内の多くの施設で、10ヶ国以上の言語(スペイン語、アラビア語、イタリア語、ベトナム語、ポルトガル語、トルコ語、ロシア語、日本語、ドイツ語、フランス語、台湾語、北京語、等)の通訳サービスを提供。
- ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル・ヒューストン国際空港でも通訳サービスを受けることが可能。
- 周辺ホテルが、テキサス・メディカル・センターで治療等を受ける患者の家族向けに、特別レートで部屋を提供。

(出所)テキサス・メディカル・センター ホームページ

(<http://www.texmedctr.tmc.edu/root/en/GetToKnow/AboutTMC/About+the+TMC.htm>)

(<http://www.texmedctr.tmc.edu/root/en/GetToKnow/FactsandFigures/Facts+and+Figures.htm>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

#### ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (2)テキサス・メディカル・センター

##### ■ 病院の概要

- テキサス・メディカル・センター内に立地する代表的な病院の1つ。癌治療において、世界でも有数の病院であり、1990年以降、USニューズ&ワールド・レポート誌の「全米の優れた病院」のがん病院のトップに位置づけられている。
- 国際色豊かな教職員による、新しい医薬や治療の臨床試験実績が豊富で、最新の癌治療を提供している。
- 子供から大人までの特殊な癌を含むあらゆる癌への対応が可能。  
(保有する科)
  - ・ 緩和ケア・リハビリテーションセンター
  - ・ 胸部センター
  - ・ 形成外科センター
  - ・ 消火器センター
  - ・ 小児癌センター
  - ・ 造血幹細胞・骨盤移植センター
  - ・ 頭頸部センター
  - ・ 内科センター
  - ・ 肉腫センター
  - ・ 乳腺センター
  - ・ 脳・脊椎センター
  - ・ 白血病・生物学的免疫療法センター
  - ・ 泌尿生殖器センター
  - ・ 婦人科癌センター
  - ・ プロトンセラピーセンター

##### ■ 各種データ(2007年)

● 病床数	512病床(平均運用病床数)
● 患者数	
・ 入院患者数	22,257人
・ 外来患者数	922,985人
・ 総入院日数	163,007日
・ 平均入院日数	7.3日
● 人員数	
・ 医師	1,383人
・ 従業員数	16,840人
・ ボランティア	1,565人
● 予算	
・ 患者からの医療収入	1,988百万ドル
・ 助成金他	314百万ドル
・ 総収入	2,679百万ドル
● 研究資金	374百万ドル
● 手術時間数	55,181時間

(出所)MDアンダーソンがんセンター 2006-2007Annual Report  
(<http://www.mdanderson.org/publications/annual-report/>)  
MDアンダーソンがんセンター日本語公式サイト(<http://www.mdanderson-jp.org/>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

## ②メディカル・ツーリズムに利用されている病院の概要 (2)テキサス・メディカル・センター

#### ■ 検診サービス(Prevention Services)

- The Cancer Prevention Centerが主体となって、癌検診サービスが提供されている。
- 検診の種類は以下のとおり。
  - ・ Comprehensive Cancer Screening
  - ・ Site-Specific Cancer Screening
  - ・ Risk Assessment and Risk Reduction
  - ・ Diagnostic Evaluation Services



患者向け宿泊施設  
「ジェシー・ジョーンズ・ロータリー・ハウス国際ホテル」

#### ■ 海外からの患者動向と海外患者向けサービス

- 世界各国から来院する患者向けに、国際部を設置。
- 異文化を理解するための特別な訓練を受けたスタッフが対応し、診断や治療の際には、医療通訳のできるスタッフが付き添い、患者の母国語ないしはより理解しやすい言語で、医療スタッフとのコミュニケーションを支援している。対応言語は、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、トルコ語、北京語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ベトナム語の9ヶ国語。
- 100ヶ国毎に担当者がおり、その者の経歴、対応可能言語、連絡先等が公開されている(兼任あり)。
- その他提供しているサービス：
  - ・ ビザに関する情報やビザの公式文書作成支援  
(ビザは、検査や治療の結果によっては期間が延びる可能性を考慮し、滞在期間の変更・延長が可能なB1かB2ビザの取得を推奨)
  - ・ 診察予約の支援
  - ・ 渡米の手配(エアライン、ホテル、地上交通等に関して、旅行代理店との交渉代行、等)
  - ・ 空港サポート(ゲートへの迎え、税関手続き支援、病院までの交通手配、等)
  - ・ 宿泊所の手配  
(M.D.アンダーソンが所有するホテル「ジェシー・ジョーンズ・ロータリー・ハウス国際ホテル」は病院の真向かいに位置し、渡り廊下で病院とつながっている。高級宿泊設備を備え、様々なニーズに対応できるよう特別なトレーニングを受けたスタッフが生活をサポート。近隣ホテルの紹介も行っており、手続き代行可能。各ホテルでは、患者向けに、通常料金とは別の料金レートを設けている。)
  - ・ MDアンダーソンとヒューストン内での移動支援
  - ・ 銀行やその他取引の支援

(出所)MDアンダーソンがんセンター 2006-2007Annual Report  
(<http://www.mdanderson.org/publications/annual-report/>)  
MDアンダーソンがんセンター日本語公式サイト(<http://www.mdanderson-jp.org/>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 3)アメリカ

#### ③メディカル・ツーリズムの特徴

---

##### (1)最先端・高度医療技術の提供

- 病院の規模のメリットを活かした最先端・高度な医療技術の提供の実現により、世界から患者が集まってくる。
  - ・ 例えば、世界最大の医療グループ「メイヨー・クリニック」には、150ヶ国以上の国から患者が訪れており、47の医療関連施設からなる「テキサス・メディカル・センター」には、海外から年間1万人以上の患者が訪れている。

##### (2)富裕層向けの充実した付帯設備・サービス

- 富裕層向けのサービス提供体制が整っており、世界の富裕層が集まってくる。
  - ・ 空港でのコンシェルジュサービス(お出迎え、税関での手続きのサポート、空港から病院までの交通の手配、等)、高級ホテル並みの院内内装と専用フロアの設置、一般患者と動線が交わらないよう、専用の受付やエレベーターの設置など、富裕層向けのサービスや配慮が充実している。
  - ・ メイヨー・クリニックでは、一般患者向けの健診サービスとは別に、企業幹部向けの1～2日間の便利な検診パッケージ「Executive Health Program」を提供している。

(出所) 国立がんセンター土屋院長へのインタビュー

Mayoclinic ホームページ (<http://www.mayoclinic.org/>)

テキサス・メディカル・センター ホームページ

(<http://www.texmedctr.tmc.edu/root/en/GetToKnow/AboutTMC/About+the+TMC.htm>)

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 4)タイ・シンガポール・アメリカの比較

観点		タイ	シンガポール	アメリカ
①医療サービス	医師	<b>ヘッドハンティングの実施</b>	<b>医師の技術レベルの高さ</b> ・WTOよりアジア首位、世界第6位の水準と認定 ・手術成功率の高さによる外国人患者来院数の多さ (NUH) <b>優秀な医師の採用</b> ・著名な医師の積極採用 (PHH) ・アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどを対象に、現地のメディカルジャーナルなどの専門誌に採用広告掲載 (NUH) <b>充実した研修・教育体制</b> ・アメリカの提携病院における研修や、ASEAN諸国からの研修生受入を実施 (NUH) ・教育研修制度の充実 (NUH)	<b>医師の技術レベルの高さ</b> ・医療水準の高さに対する評価が高く、ロコミで海外から富裕層が来院 <b>診療作業への特化</b> ・医師の時間当たり単価を高水準に維持 ・患者一人当たりに対する診療時間を多く確保
	機器・設備・その他	<b>充実した医療機器・設備</b> ・PET/CTの設置、ノバルス(立体的放射線癌治療)などの最新医療技術 ・医療用ヘリコプター導入 (BH) ・カルテのIT化による海外病院との患者情報共有		<b>規模のメリットを活かした最先端医療技術の提供</b> ・幅広い疾病への対応可能 ・24時間体制の医療サービス提供可能
②スタッフのサービスレベル	看護師・スタッフ	<b>幅広い外国語への対応</b> ・幅広い国籍(14カ国以上)のスタッフを採用 (BH) <b>外国人患者に対応した院内研修の充実</b> ・語学・文化・ホスピタリティなどに関する院内研修の実施	<b>幅広い外国語への対応</b> ・外国人スタッフ比率20% (NUH)	<b>医師との分業体制の明確化</b> <b>多くの数の看護師確保</b> ・患者の回転数アップのため、患者へのきめ細かいリハビリ実施
	通訳・コンシェルジュ	<b>通訳体制の充実</b> ・医療知識やコンシェルジュ機能を持つ通訳の設置、幅広い言語対応(最大26カ国)	(一般職員やアウトソースによる対応 (PH))	<b>通訳体制の充実</b> ・医療通訳の設置、幅広い言語対応(最大25カ国) <b>コンシェルジュサービス実施</b>

## 2.高度予防医療先進国における健診・医療の状況

### 4)タイ・シンガポール・アメリカの比較

観点	タイ	シンガポール	アメリカ
③チャンネル・プロモーション	<p><b>外国人患者に対応したホームページの整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い外国語への対応(最大8カ国)、外国語によるオンライン予約や医師検索システムの完備</li> </ul> <p><b>海外との幅広いネットワーク・提携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外の旅行・保険会社などとの提携、国内外のグループ病院・事務所(最大25カ国)の保有</li> </ul> <p><b>積極的なプロモーションの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ・新聞による宣伝や、スポーツイベントのスポンサーなどによる積極的な集客の実施</li> <li>病院紹介ビデオによる宣伝</li> <li>外国人向けのセミナー開催</li> </ul>	<p><b>プロモーションの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ・新聞による宣伝</li> <li>病院紹介ビデオによる宣伝</li> <li>セミナー開催、国際会議でのプロモーション実施</li> <li>治療結果(成功率)のホームページへの掲載</li> <li>著名な医師の採用による外国人患者の集客</li> </ul>	(積極的に行わず)
④診療料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>自国の半分以下に設定(バンコク国際病院ソムアツツ院長インタビューより)</li> <li>日本と同レベルか若干高めの水準(サンテンヒアリングより)</li> </ul>	(アメリカよりはるかに安い、アジアでは最高水準)	
⑤付帯設備・サービス	<p><b>外国人患者に対応する充実したサービス提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設の充実(グレード別に設置)(BI)</li> <li>旅行代理店、ビザ発行窓口、飲食施設(最大6カ国の料理)などの設置</li> </ul>	<p><b>外国人患者に対応する一定レベルのサービス提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設や飲食施設などの設置、受付でのコーヒーサービスやインターネットサービスなどの提供</li> <li>患者のグレードに連動したサービスレベルの設定(NUH)</li> </ul>	<p><b>富裕層に対応する充実したサービス提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空港でのコンシェルジュサービス提供</li> <li>院内における内装のグレードを高く設定</li> <li>ビザ作成支援、旅行手続き支援などの実施</li> <li>宿泊施設の設置(MDアンダーソン)</li> </ul>
⑥その他	<b>グローバル認証の取得</b>	<p><b>グローバル認証の取得</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9病院と3つのメディカルセンターがJCI認証を取得しており、アジア地域のJCI認証取得病院の約3分の1を占有</li> </ul>	<p><b>業務の効率化への注力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CTの稼働時間の長さ</li> <li>医師と看護師との分業体制の明確化</li> </ul>

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 1)中国(北京)における健診・医療サービスの実態

---

#### ■ 中国における健診の現状

- 健診は、主に公立総合病院の附属施設において展開されている。
- 医療費の増大を受け、中国でも日本同様に医療費抑制政策が打ち出されており、上海市において予防医学における医療サービスを提供するプロジェクトが発足されるなど、予防医療に対する国の意識は高まっている。
  - ・ 人民網日報によると、北京市の小中学生を対象に、2008年より年1回の無料健康診断が実施されている。
- また、中国衛生部病院管理研究所を中心として出版された「中国における健康診断の発展報告(2007)」によると、南方都市の35歳～退職前(男性65歳、女性60歳)を対象とした健診実施状況調査によると、毎年健診を受診している人は42%との結果がある。

#### ■ 各病院における健診の実態

##### (中日友好病院)

- 一般の診療科のほかに、中国に滞在する外国人(台湾人、香港人含む)と一部富裕層を対象とした国際診療部があり、その部では入院・外来のほかに健診を取り扱っている。
- 国際診療部の病床数は79であり、看護師は英語、日本語、韓国語のいずれかを話すことが採用の条件となっている。企業利用の割合が多いため、健診のリピート率は高い。

##### (北京協和病院)

- 日帰りでの健診を取り扱っているが、人間ドックに該当するものは提供していない。
- 個人利用よりも、企業利用の方が高い割合を占める。

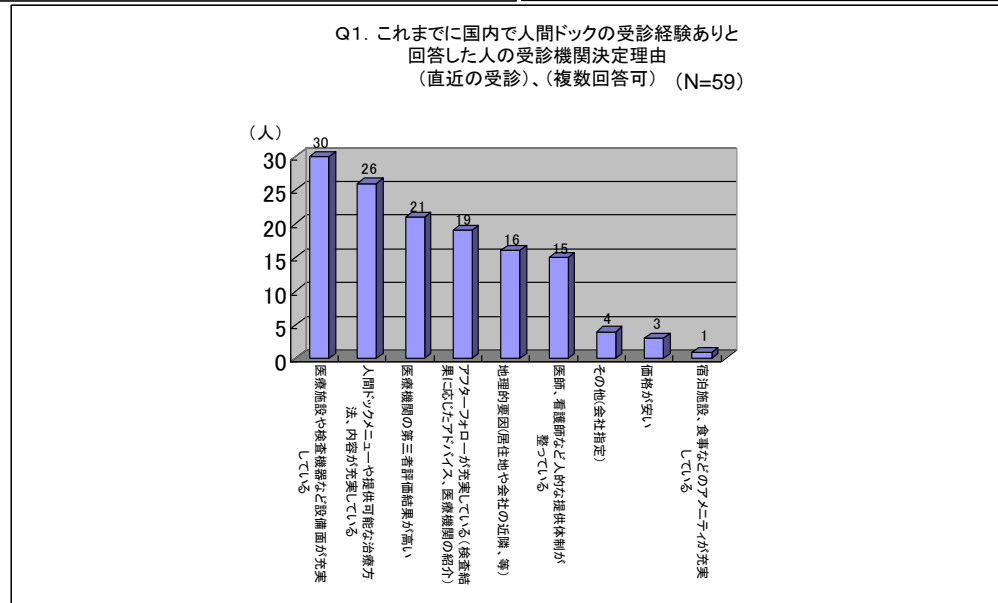
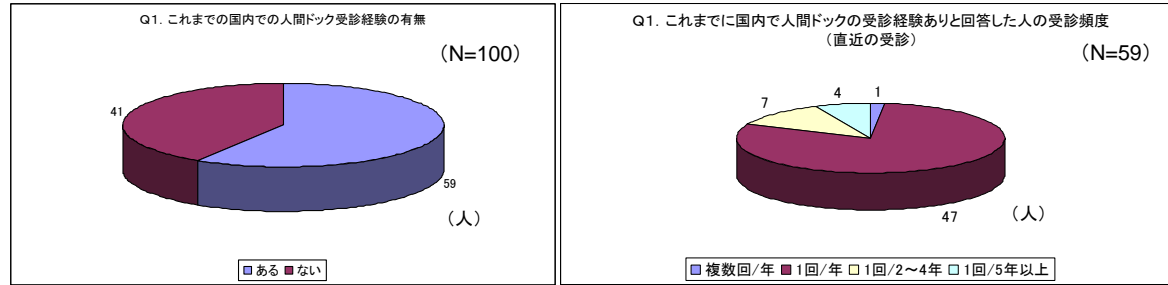
(出所)サンテン調査

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ①人間ドックの受診実態(1)

- アンケート結果によると、約6割(100人中59人)が人間ドックを受診したことがあると回答しており、そのうちの約8割(59人中47人)が年に1回の頻度で行うと回答している。
- 受診機関の決定理由としては、「医療機器や設備の充実」、「人間ドックなど医療メニュー・内容の充実」、「医療機関の第三者評価結果」の順に高い割合になっており、医療機器・設備の充実や、受診する医療サービスの充実が、受診機関を決定する際の大きな条件となることが窺える。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

・調査方法: 質問票による電話アンケート

・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)

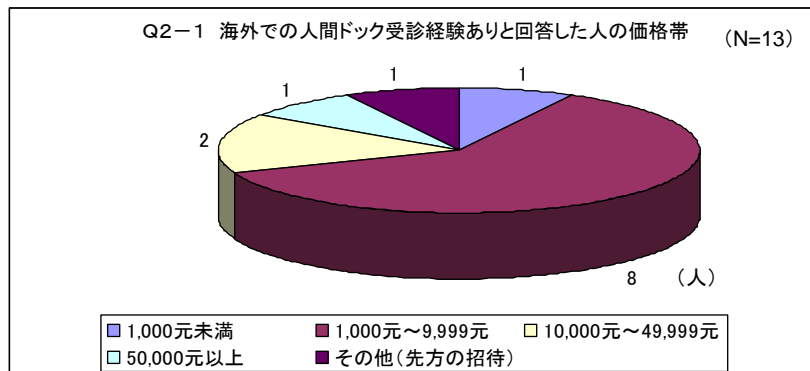
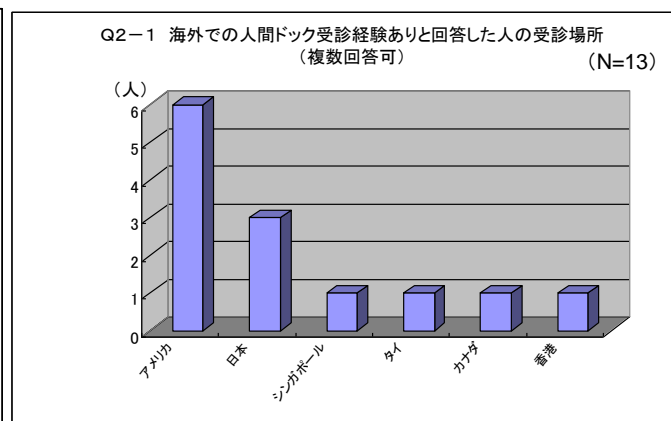
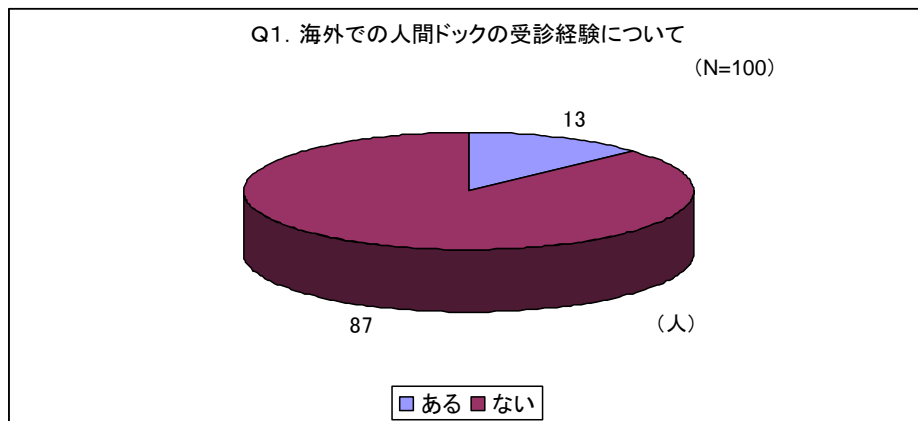
・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ①人間ドックの受診実態(2)

- アンケート結果によると、13%(100人中13人)が、海外での人間ドック受診経験があると回答している。
- 海外での人間ドック経験者の受診国は、アメリカが6人、日本が3人、シンガポール、タイ、カナダ、香港がそれぞれ1人ずつとなっている。
- また、海外で受診した際の価格帯は、1,000元～9,999元(約14,000～約140,000円)と回答した人が最も多い。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

・調査方法: 質問票による電話アンケート

・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)

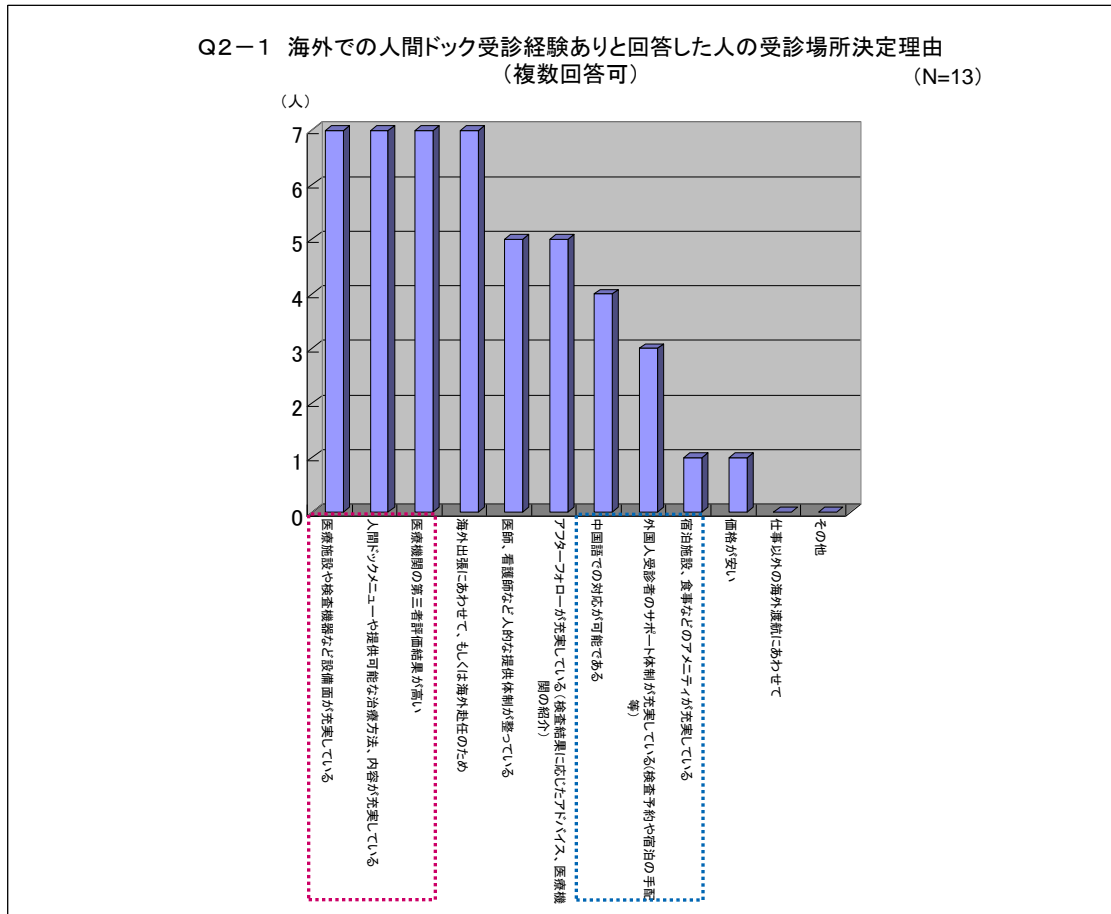
・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ①人間ドックの受診実態(3)

- 海外での受診場所の決定理由としては、「医療機器・設備の充実」、「人間ドックなど医療メニュー・内容の充実」、「医療機関の第三者評価」と回答した人が多い。
- 言語対応や、宿泊施設・食事の充実などといった付帯施設・サービスの充実よりも、医療機器・設備の充実や医療サービスの質の高さに対するニーズが大きいことが窺える。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

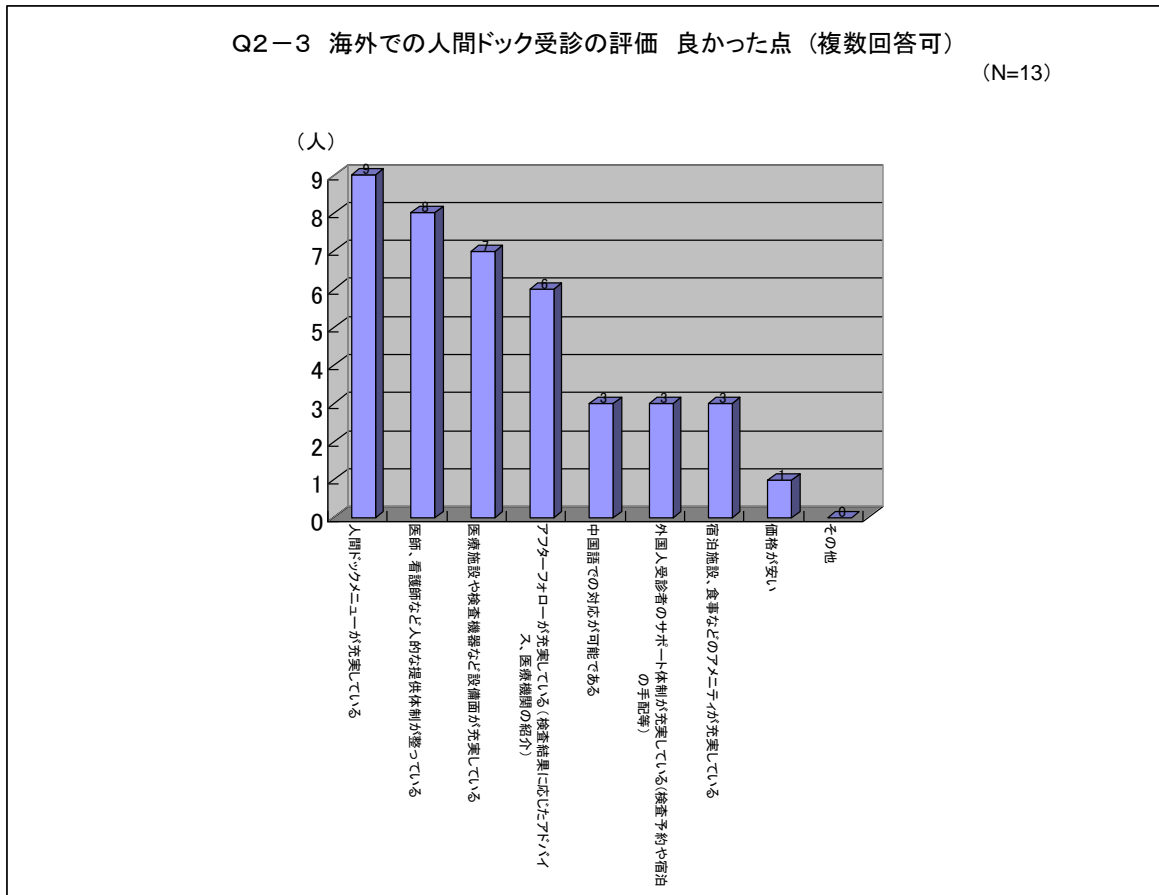
- ・調査方法: 質問票による電話アンケート
- ・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)
- ・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ①人間ドックの受診実態(4)

- 海外での人間ドック受診の評価としては、人間ドックメニューの充実や、医師・看護師などのスタッフの提供体制の整備、医療機器・設備の充実、アフターフォローの充実に対する満足度が比較的高い一方で、言語対応やサポート体制、宿泊施設・食事など、付帯施設・サービスに対する満足度は低くなっている。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

・調査方法: 質問票による電話アンケート

・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)

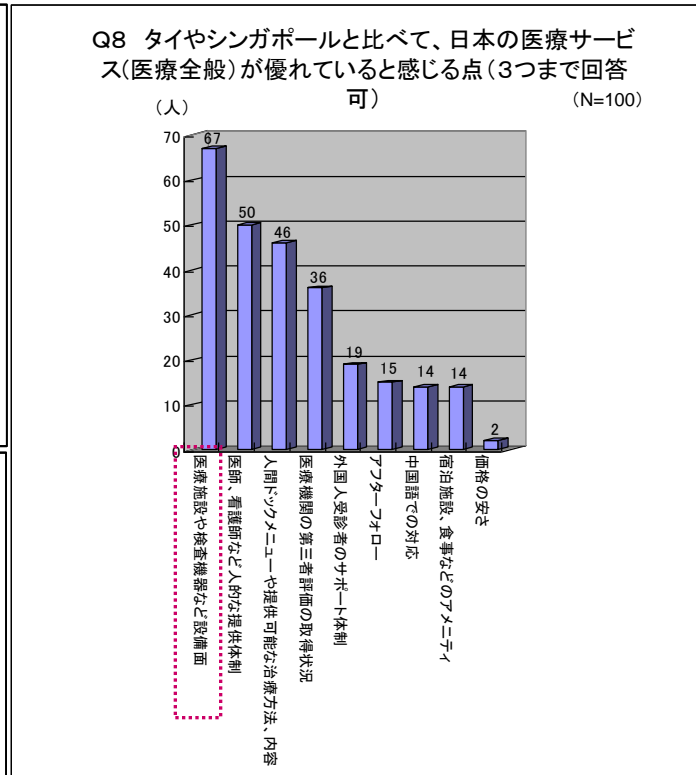
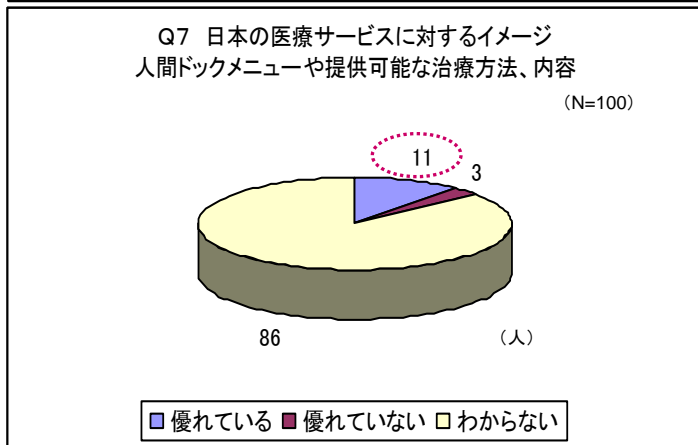
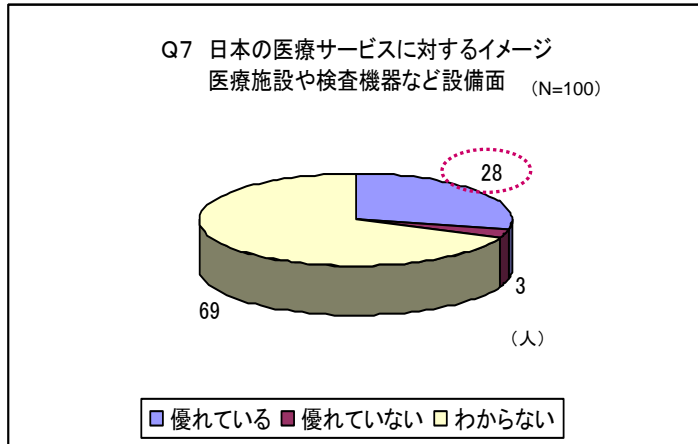
・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ②日本の医療サービス(医療全般)の認知・イメージ(1)

- また、中国富裕層が日本の医療サービスに対して有するイメージとしては、医療機器・設備や治療メニュー・内容が優れている、といった回答が多い。
- さらに、回答者の67%が、日本はタイやシンガポールと比較して医療機器・設備が優れているというイメージを持っている。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

・調査方法: 質問票による電話アンケート

・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)

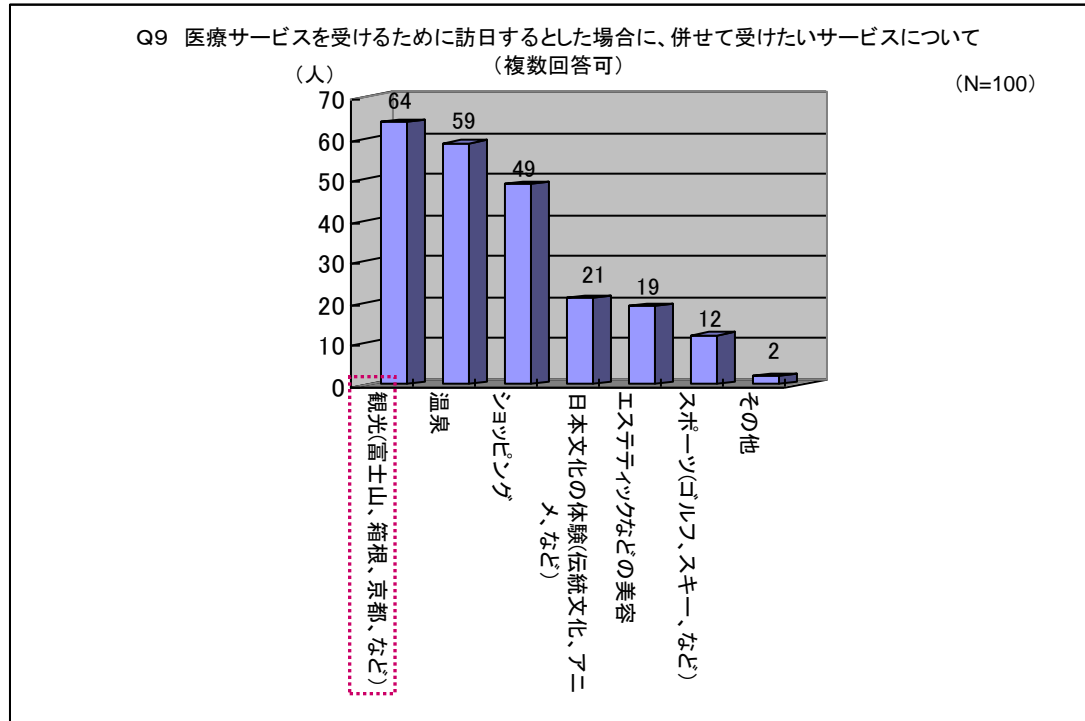
・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 2)中国富裕層の受診実態・受診意向

### ②日本の医療サービス(医療全般)の認知・イメージ(2)

- また、訪日時に併せて受けたいサービスとしては、観光(富士山、箱根、京都など)や温泉、と回答している人が多い。



(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

・調査方法: 質問票による電話アンケート

・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)

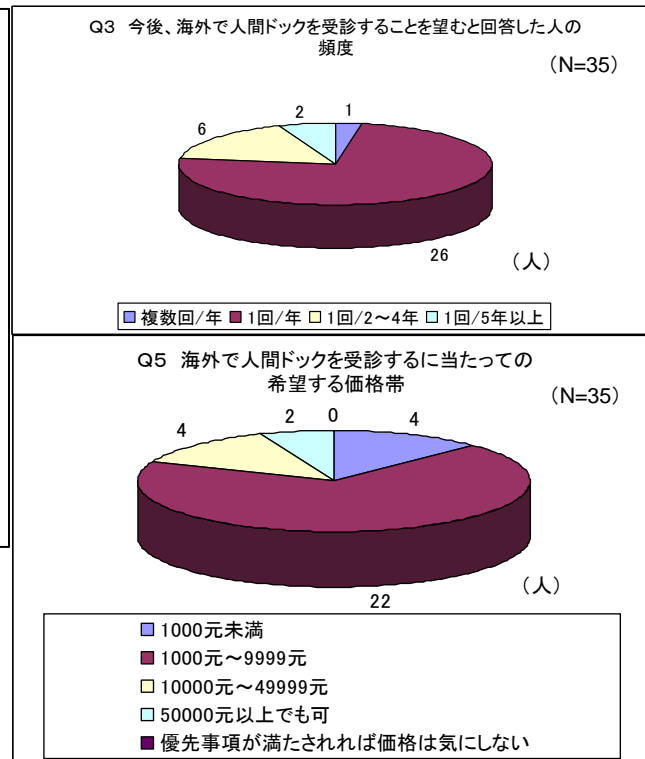
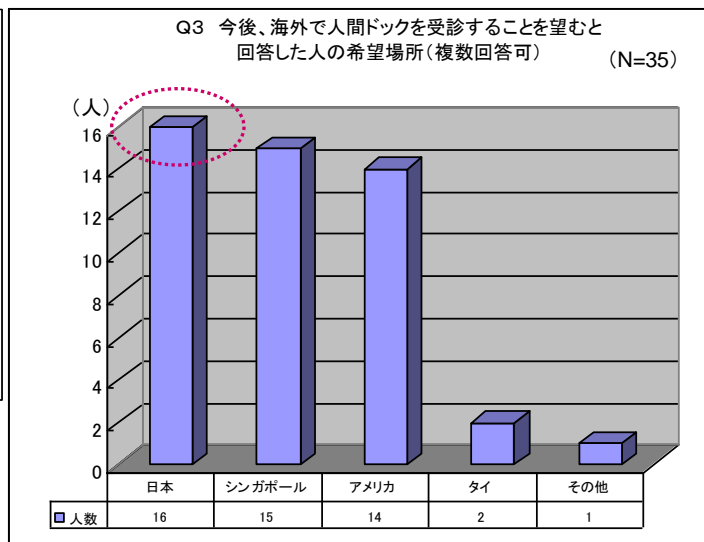
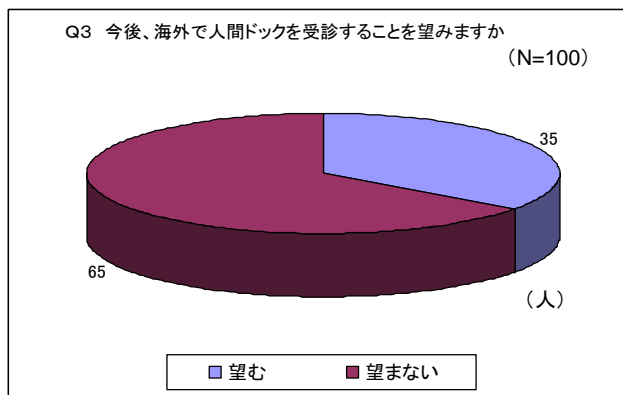
・有効回答数: 100

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

### ①医療サービス(人間ドック)に対するニーズ(1)

- 今後海外での人間ドック受診を希望すると回答した人は35%(100人中35人)であり、現在の海外受診経験者(13%)より増加している。
- また、希望する受診国としては、日本が最も人気であり、シンガポール、アメリカの順に続く。
- 海外で受診する際の頻度は、年に1回と回答している人が最も多く、希望価格帯は、1,000~9,999元(約14,000~約140,000円)と回答した人が最も多い。



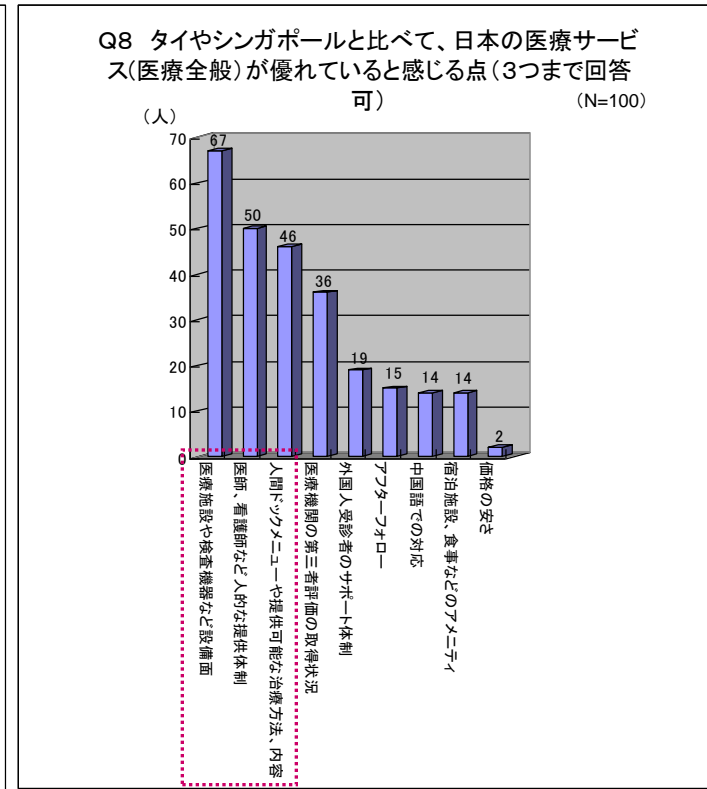
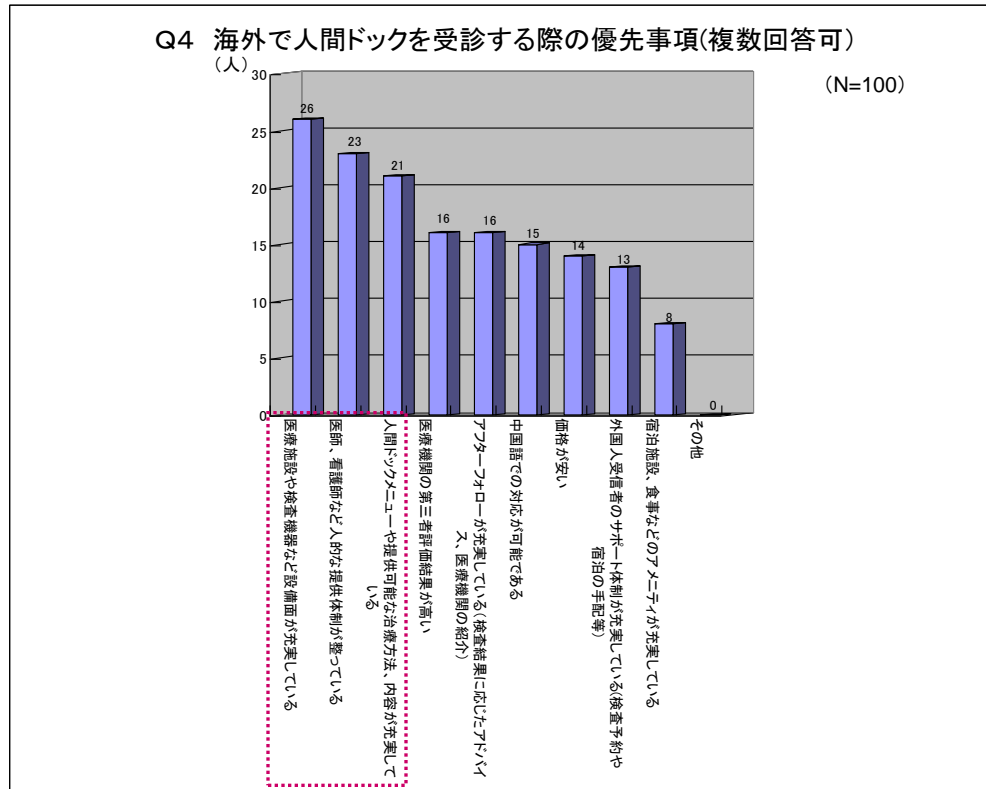
(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート

- ・調査方法: 質問票による電話アンケート
- ・調査対象: 過去にチャーター便で海外旅行を経験(30歳以上)
- ・有効回答数: 100

## 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

### ①医療サービス(人間ドック)に対するニーズ(2)

- 中国富裕層が海外で人間ドックを受診する際の優先事項としては、「医療機器・設備の充実」、「医師・看護師などのスタッフ提供体制の整備」の順に高い結果となっている。
- 一方で、中国富裕層が日本の医療サービスがタイやシンガポールと比較して優れていると感じる点についても、「医療機器・設備の充実」、「医師・看護師などのスタッフ体制の整備」の順に高い結果となっている。
- よって、多くの中国富裕層が、海外での人間ドック受診の希望場所として、日本を検討する可能性は十分に存在する。

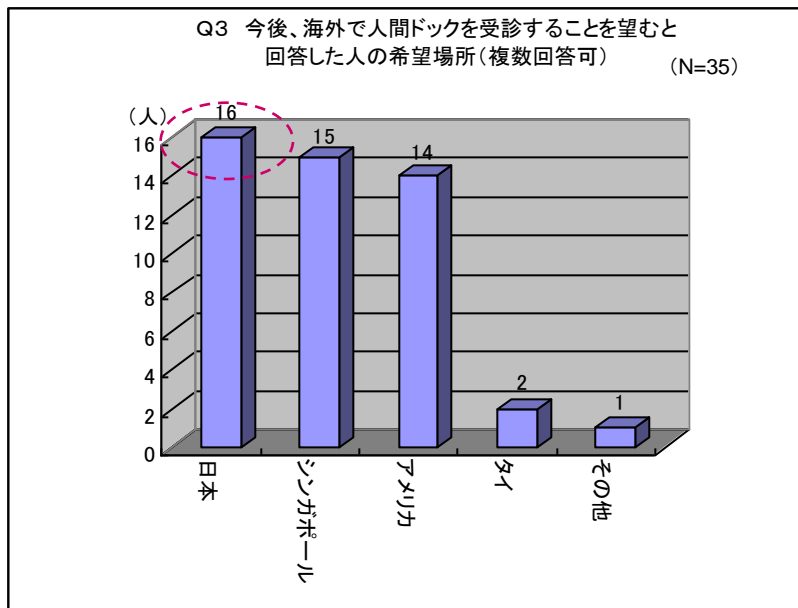


(出所) サンテン調査による中国富裕層アンケート(再掲)

## 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

### ①医療サービス(人間ドック)に対するニーズ(3)

- また、中国富裕層にとって、日本は、シンガポール、アメリカと並んで最も受診を望む国であるという結果が出ている。
- よって、日本の医療サービスレベルが高いというイメージによって、多くの中国富裕層が日本での人間ドック受診に魅力を感じていることが窺える。

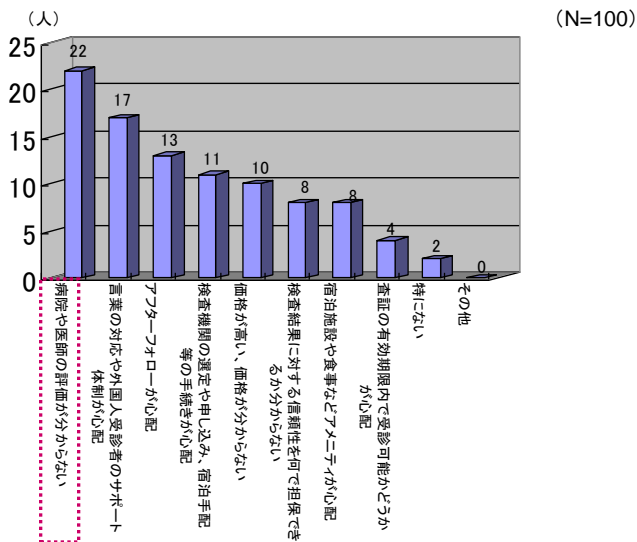


### 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

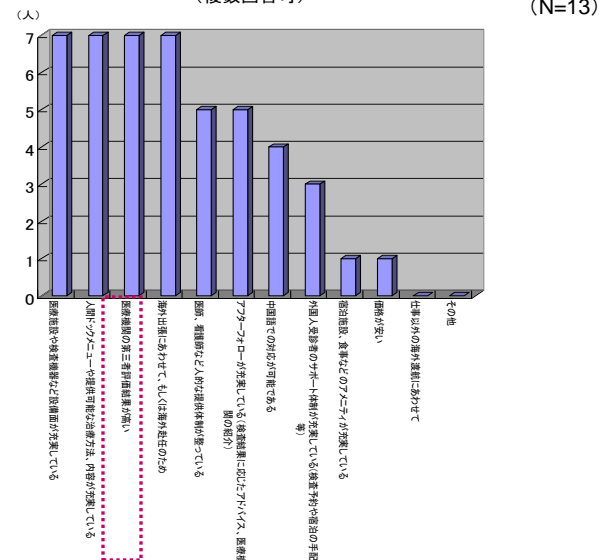
#### ①医療サービス(人間ドック)に対するニーズ(4)

- また、その一方で、中国富裕層が海外で人間ドックを受診する際の懸念事項として、「病院や医師の評価が分からない」という意見が多い。
- 中国富裕層は、受診場所を決定する際に「医療機関の第三者評価」を重要な条件として捉えていることが窺える。
- タイやシンガポールでは、外国人患者を受け入れている病院の多くがJCI等の国際認証を積極的に取得している。よって、日本も外国人患者を呼び込むために、各病院における医療機関による第三者評価の取得などの検討が考えられる。

Q6 海外で受診する際の懸念事項(複数回答可)



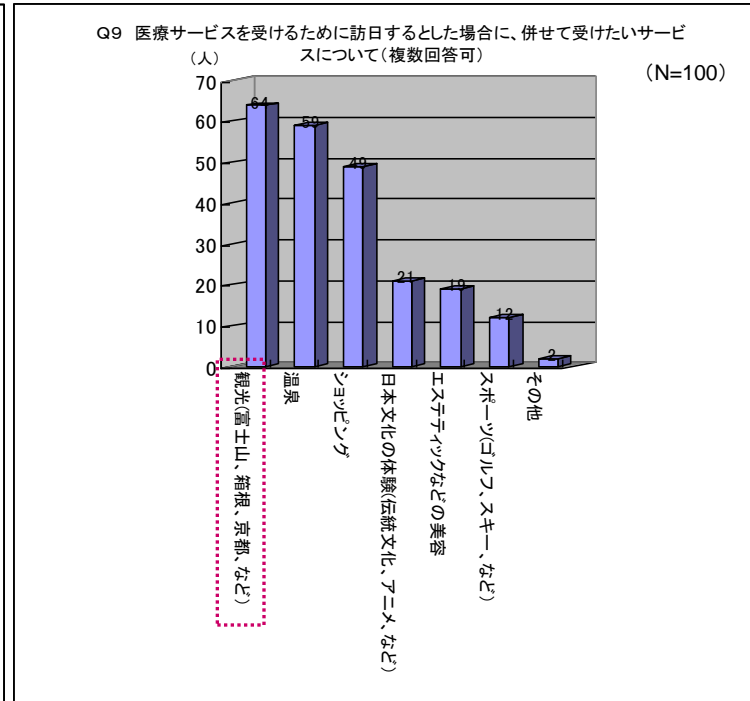
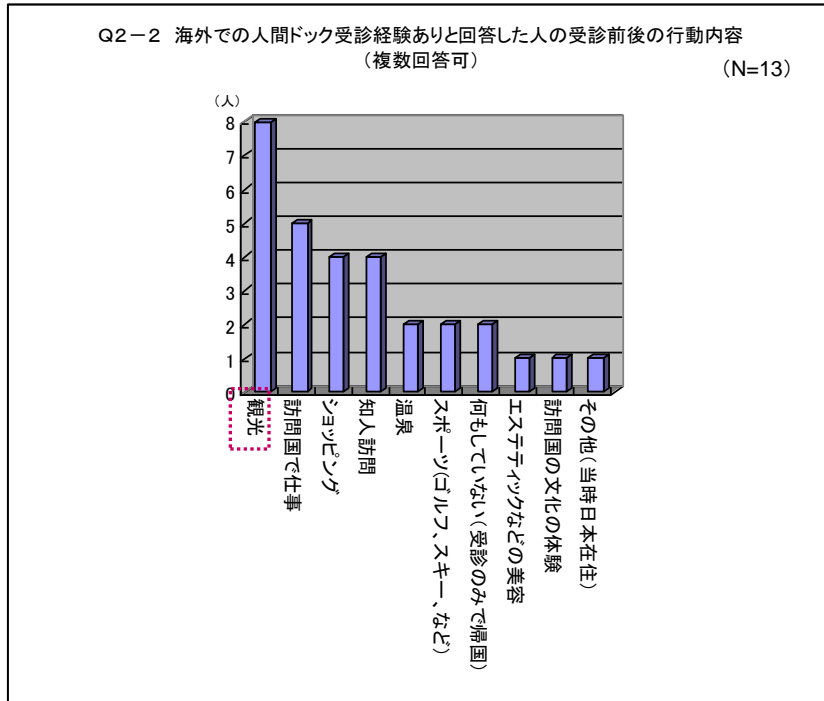
Q2-1 海外での人間ドック受診経験ありと回答した人の受診場所決定理由(複数回答可)



## 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

### ②付帯サービスに対するニーズ(1)

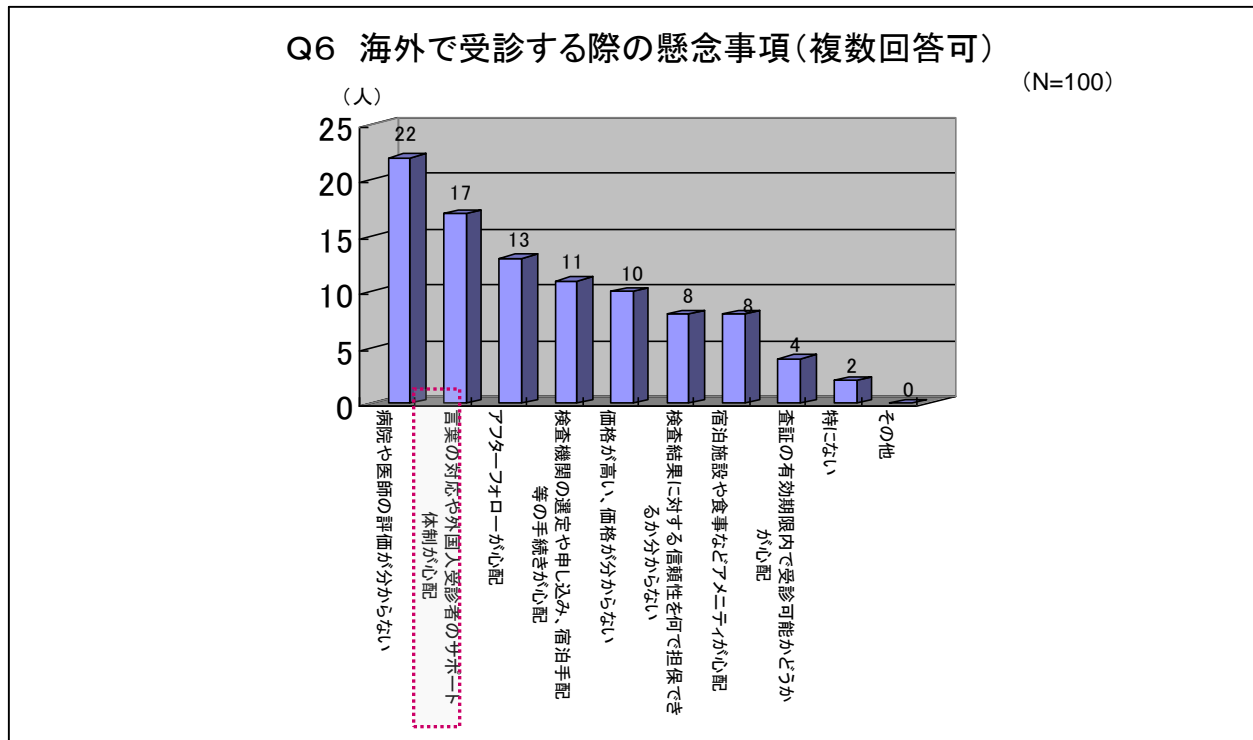
- 海外での人間ドック受診経験があると回答した13人のうち、8人(約61.5%)が受診前後に観光を行ったと回答している。よって、海外において人間ドック受診と併せて観光を行う富裕層は多く存在すると考えられる。
- また、彼らが今後医療サービスを受けるために訪日する場合に併せて受けたいサービスとして、観光(富士山、箱根、京都など)、温泉、ショッピングが多く挙げられた。
- よって、今後、日本の病院と旅行代理店との提携などによる、人間ドックと国内観光をセットにしたツアーなどの検討が考えられる。



## 3)中国富裕層の海外における受診ニーズ

### ②付帯サービスに対するニーズ(2)

- また、海外受診の懸念事項として、「言語対応や外国人受診者のサポート体制」が上位に挙がっていたことから、今後通訳やコンシェルジュ機能の設置といった検討も考えられる①。
- 日本国内で中国人旅行者向けのサービスを実施しているホテルへのヒアリング結果によると、中国人へのコンシェルジュ・窓口対応は、中国語でなく英語でほぼ足りるという認識であるという。よって、英語による対応により、中国人向けの付帯サービス提供はある程度可能であると考えられる②。



(出所)

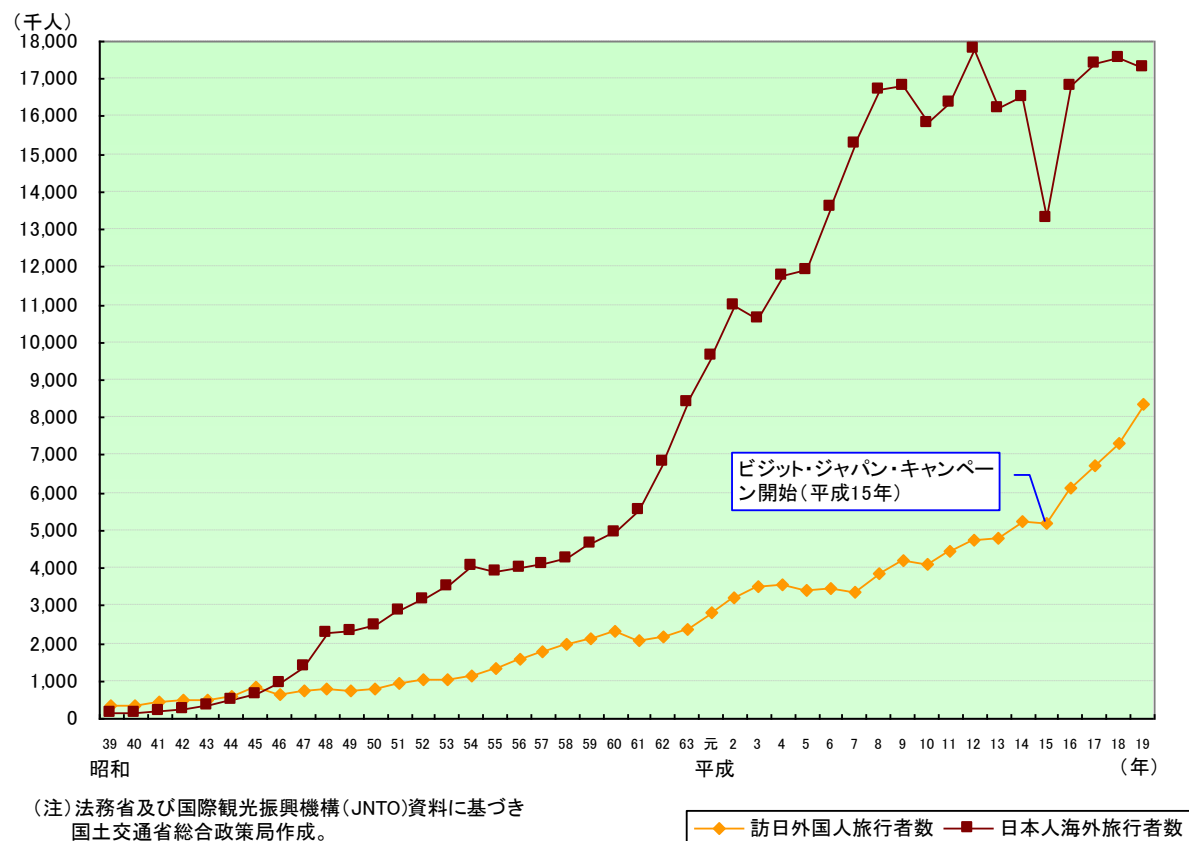
- ①サンテン調査による中国富裕層アンケート(再掲)
- ②サンテン調査による国内付帯サービス提供者へのヒアリング

### 3. 中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## (参考)訪日外国人の付帯サービス消費動向(1)

#### ■ 訪日外国人旅行者の動向(1)

- 平成15年のビジット・ジャパンキャンペーン開始以降、訪日外国人旅行者数は、増加傾向にあり、平成19年の訪日外国人旅行者数は、834.7万人(前年比13.8%増)となり過去最高値を達成した。



(出所)国土交通省「平成20年版 観光白書」

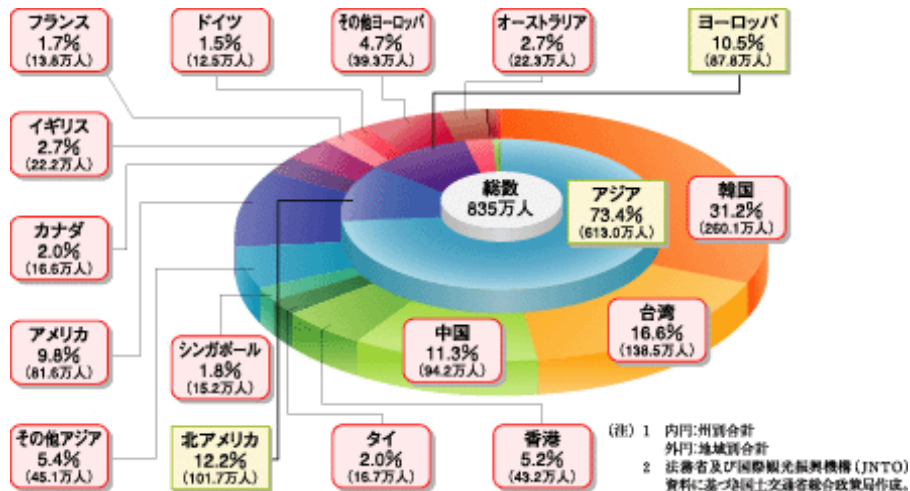
### 3. 中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## (参考)訪日外国人の付帯サービス消費動向(2)

#### ■ 訪日外国人旅行者の動向(2)

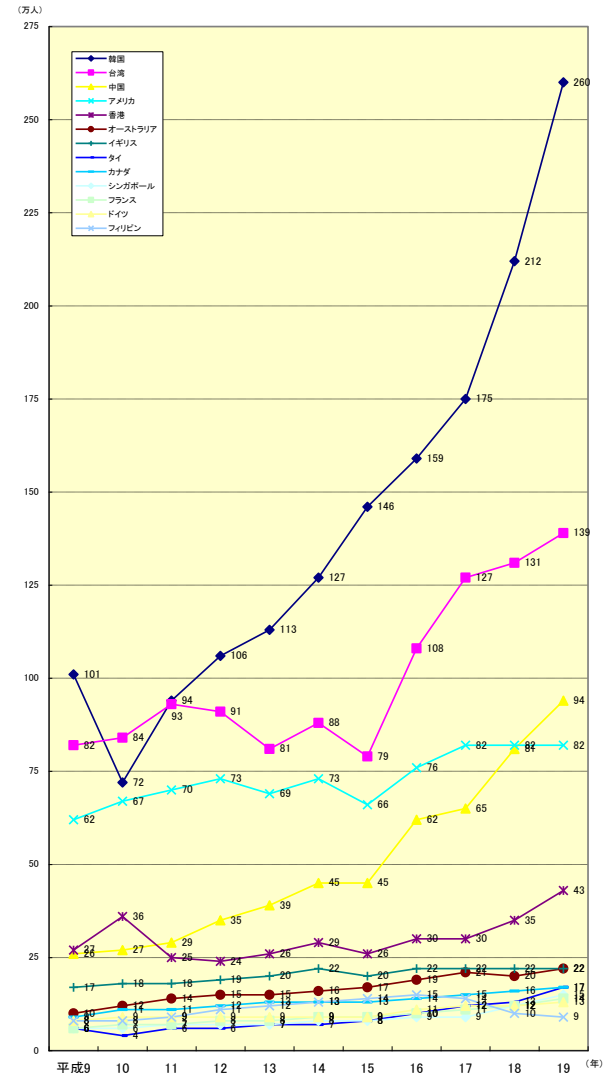
- 訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジアが613.0万人と全体の73.4%を占め最も多い。次いで、北アメリカが101.7万人(全体の12.2%)、ヨーロッパが87.8万人(同10.5%)の順となっている。
- 国・地域別の訪日外国人旅行者数を経年変化で見ると、韓国が前年比22.8%増の260万人と極めて高い伸びを維持し、9年連続で首位となった。以下、台湾139万人(前年比5.8%増)、中国94万人(同16.1%増)の順となり、香港も43万人ながら前年比22.6%増と極めて高い伸び率となった。

図表 上位12か国 州別・国・地域別訪日外国人旅行者の割合(平成19年)



(出所)国土交通省「平成20年版 観光白書」

図表 上位10か国・地域からの訪日外国人旅行者数の推移



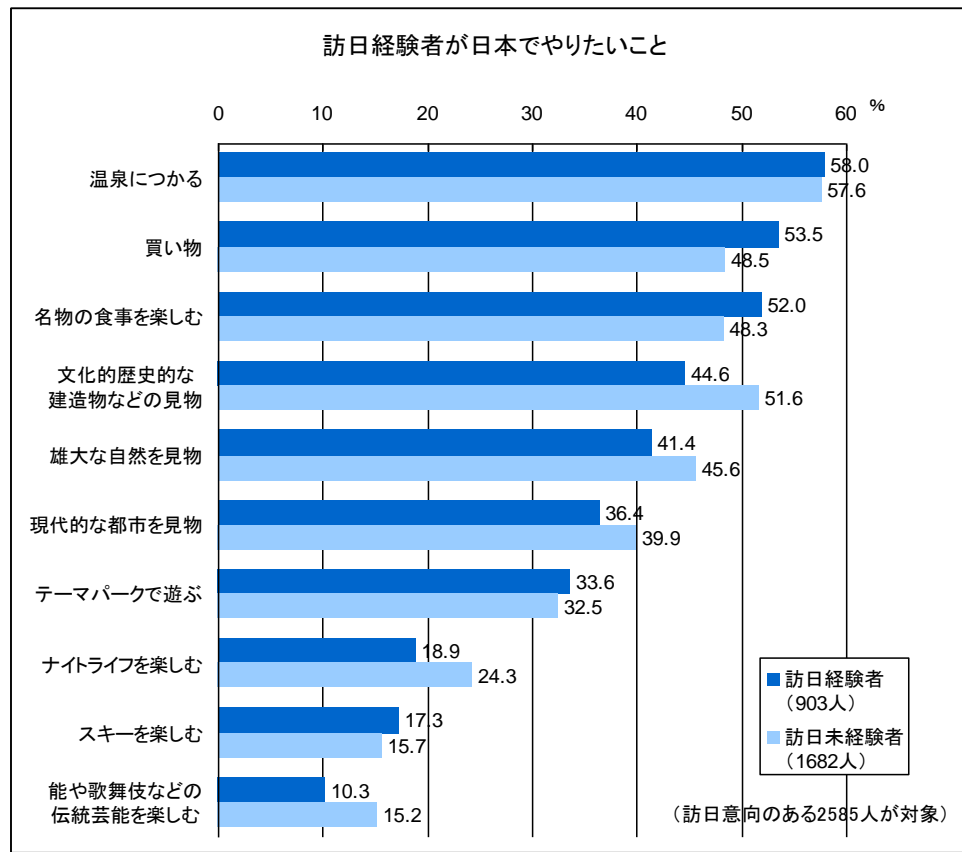
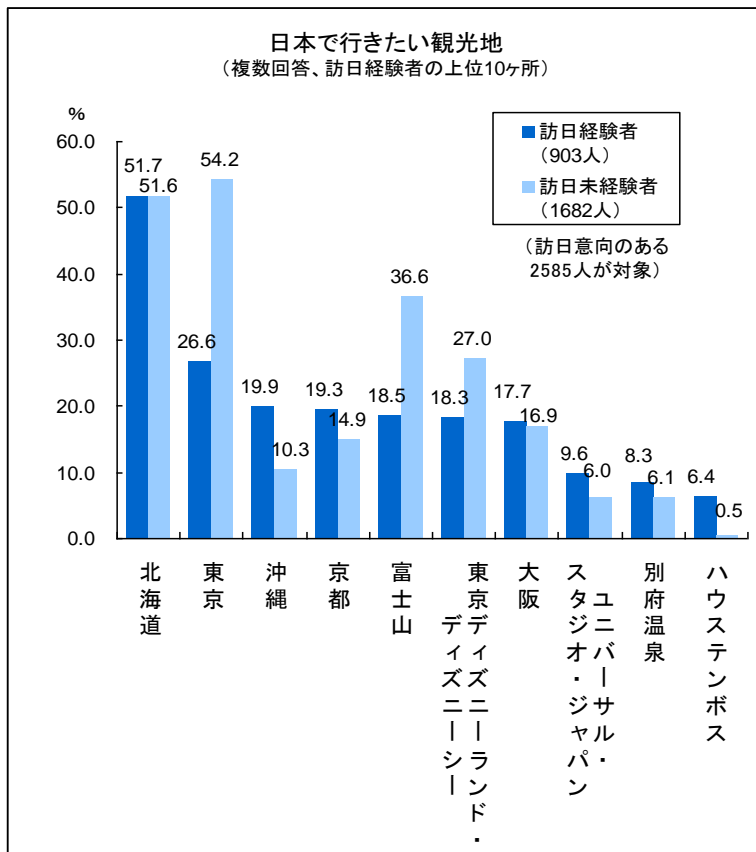
(注)国際観光振興機構(JNTO)資料に基づき国土交通省総合政策局作成。

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## (参考)訪日外国人の付帯サービス消費動向(3)

#### ■ 訪日外国人旅行者の消費動向(1)

- 訪日外国人旅行者が行きたい観光地としては、東京、北海道、富士山、東京ディズニーランド・ディズニーシー等の人気が高い。
- 訪日外国人旅行者が日本でやりたいこととしては、「温泉」が最も人気が高く、次いで、「買い物」、「食事」、「文化的歴史的建造物などの見学」などである。



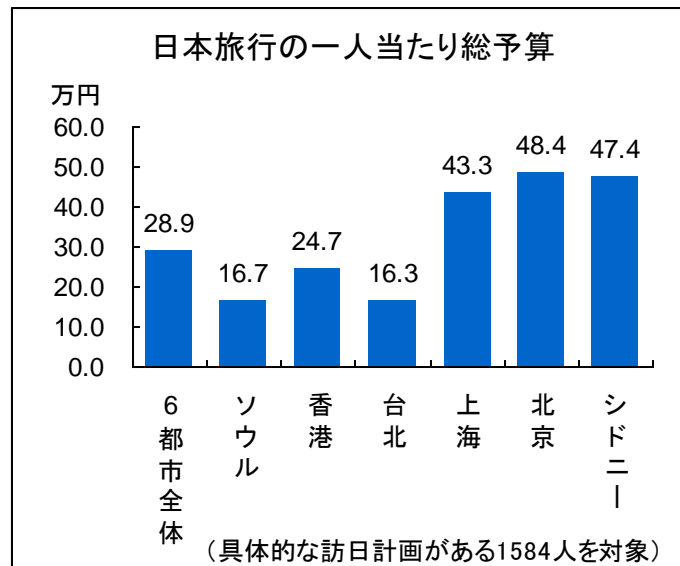
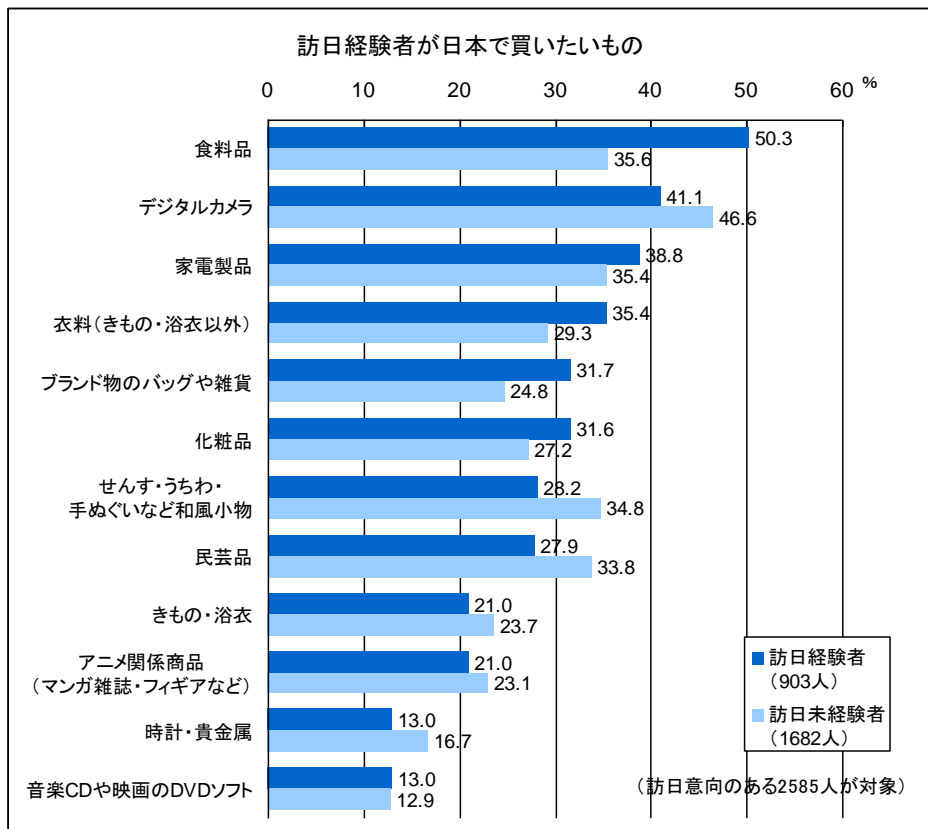
(出所)高まるアジア・豪州のニッポン観光熱 —訪日意向と自治体誘客策調査—(日本経済新聞社 産業地域研究所、2008年6月)

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

## (参考)訪日外国人の付帯サービス消費動向(4)

#### ■ 訪日外国人旅行者の消費動向(2)

- 訪日未経験の外国人旅行者が日本で買いたいものとしては、「家電製品」や「食料品」の人気の高い。訪日経験の外国人旅行者には、「家電製品」よりも「食料品」の方が人気の高い。
- 日本への旅行計画がある人の一人当たりの旅行予算は、ソウル、香港、台北、上海、北京、シドニーの6都市平均で約29万円である。北京の約48万円が最も高いのに対し、ソウルや台北は10万円台半ばと、地域によって大きな差があることが窺える。



(出所)高まるアジア・豪州のニッポン観光熱 —訪日意向と自治体誘客策調査—  
(日本経済新聞社 産業地域研究所、2008年6月)

### 3.中国における健診・医療サービスと富裕層マーケットの実態

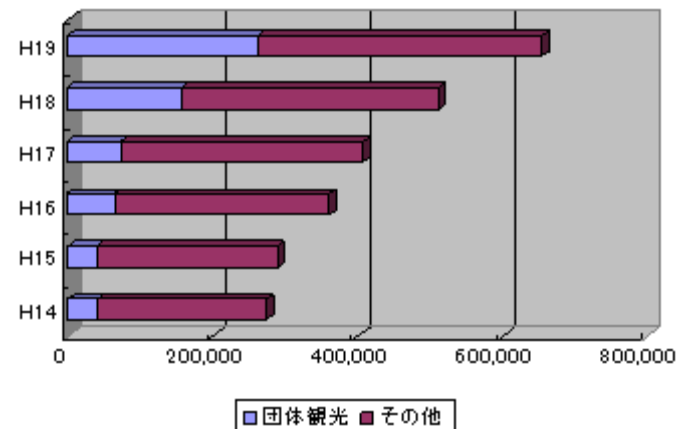
## (参考)中国訪日観光ビザについて

- 中国人の訪日観光については、これまで、団体での観光のみが認められていた。
  - 2000年、「団体観光ビザ(査証)」が地域限定で解禁され、その後、ビザ発給対象地域が段階的に拡大され、2005年以降、中国全土の全ての国民への団体観光ビザ発給が解禁された。
- 中国人の訪日観光客増加に伴い、より少人数で自由な観光を求める要望が高まったことを背景に、2008年3月、一定の経済力を有する家族を対象にした「家族観光ビザ」の発給が試行的に開始された。これにより、2～3人の少人数からなる家族(3等親以内)の旅行客が日本を観光目的で訪問できるようになった。
  - 「家族観光ビザ」の申請は、「団体観光ビザ」と同様に、中国国会旅游局と在中国大使館又は領事館によりに許可を受けた中国の旅行社経由で行う。その過程で、一定の経済力の有無を確認することになっている。
- 今後、観光庁は、添乗員数など「家族観光ビザ」の厳しい発給条件を緩和したい意向を示しており、今後の緩和措置によっては、中国人富裕層の訪日がさらに増えることが期待される。

図表 団体観光ビザと家族観光ビザの概要

	団体観光ビザ	家族観光ビザ
概要	中国国民が観光目的により、団体(グループツアーを組んで)で日本を訪問するために取得が必要なビザ	中国国民が観光目的により、家族2～3名で日本を訪問するために取得が必要なビザ
開始時期	2000年 地域限定で発給開始 2005年 中国全土で発給開始	2008年 試行的に発給開始
対象者	中国全土の国民(所得制限なし)	十分な経済力を有する者とその家族
人数	5名～40名 (中国側添乗員を含まない)	3等身以内の家族2～3名 (中国側添乗員を含まない)
添乗員同行制約	日本側及び中国側双方より各1名の合計2名	日本側及び中国側双方より各1名の合計2名
滞在期間	15日以内	15日以内

図表 在中国各公館(香港総除く)における査証発給数の推移



(出所) 外務省プレスリリース(平成20年2月29日)  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/h20/2/1178300\\_902.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/h20/2/1178300_902.html)

在中国日本国大使館 [http://www.cn.emb-japan.go.jp/consular\\_j/visa\\_j.htm](http://www.cn.emb-japan.go.jp/consular_j/visa_j.htm)

東京読売新聞(平成21年3月9日朝刊、平成20年3月1日朝刊)

## 4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

### 1)我が国における予防医療の実態

#### ①人間ドック実施施設の現状

##### ■ 人間ドック指定病院および指定施設数(都道府県別、経営主体別)

- 有限責任中間法人日本人間ドック学会・社団法人日本病院会指定の二日ドック指定施設数は480で、経営主体別にみると、医療法人が全体の約半数近くを占め、次いで、公益法人、市町村、日赤の順である。
- 一日ドックの指定施設数は140で、医療法人と公益法人とで全体の約8割を占めている。

図表 人間ドック指定病院および指定施設 都道府県別(2008年1月現在)

	二日ドック			一日ドック			機能評価				
	施設数	%	機能評価	施設数	%	機能評価	施設数	%	機能評価		
北海道	6	4	5	石川県	9	1	1	岡山県	8	3	6
青森県	6	0	2	福井県	4	1	1	広島県	12	5	9
岩手県	6	1	1	山梨県	5	1	1	山口県	15	0	2
宮城県	1	3	4	長野県	5	0	7	徳島県	1	1	1
秋田県	5	0	1	岐阜県	5	3	3	香川県	3	1	4
山形県	2	0	1	静岡県	21	4	5	愛媛県	6	0	2
福島県	14	1	1	愛知県	11	8	8	高知県	2	3	1
茨城県	17	4	3	三重県	6	1	5	福岡県	36	8	6
栃木県	7	2	3	滋賀県	10	1	1	佐賀県	1	0	1
群馬県	18	1	3	京都府	22	4	5	長崎県	1	0	1
埼玉県	12	1	7	大阪府	21	14	17	熊本県	4	1	2
千葉県	35	5	7	兵庫県	23	2	3	大分県	0	4	2
東京都	59	34	28	奈良県	1	0	2	宮崎県	3	0	0
神奈川県	28	9	9	和歌山県	3	0	0	鹿児島県	3	1	0
新潟県	17	6	2	鳥取県	2	0	0	沖縄県	0	1	4
富山県	2	1	1	島根県	2	0	1	計	480	140	179

合計数 二日ドック指定施設数 480施設  
 一日ドック指定施設数 140施設  
 機能評価認定施設数 179施設

図表 人間ドック指定病院および指定施設 経営主体別(2007年)

開設別	二日ドック		一日ドック		機能評価		開設別	二日ドック		一日ドック		機能評価	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%		施設数	%	施設数	%	施設数	%
独立行政法人(国立病院機構等)	3	0.6	0	0.0	1	0.6	船保会	3	0.6	0	0.0	4	2.2
その他公的	0	0.0	0	0.0	0	0.0	健保及び連合	5	1.0	1	0.7	1	0.6
国(その他)	1	0.2	0	0.0	0	0.0	共済及び連合	11	2.3	1	0.7	2	1.1
都道府県	6	1.3	0	0.0	1	0.6	国保組合	0	0.0	0	0.0	0	0.0
市町村	42	8.8	3	2.1	5	2.8	公益法人	42	8.8	55	39.3	36	20.1
日赤	30	6.3	0	0.0	12	6.7	医療法人	233	48.5	57	40.7	75	41.9
済生会	23	4.8	0	0.0	3	1.7	学校法人	7	1.5	5	3.6	1	0.6
北海会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	会社	4	0.8	3	2.1	8	4.5
厚生連	23	4.8	3	2.1	10	5.6	その他法人	14	2.9	0	0.0	8	4.5
国保連	0	0.0	0	0.0	0	0.0	個人	14	2.9	8	5.7	5	2.8
全社連	17	3.5	3	2.1	7	3.9							
厚生団	2	0.4	1	0.7	0	0.0	合計	480	100.0	140	100.0	179	100.0

(出所) 日本人間ドック学会「2007年人間ドック指定病院・施設の現況」

## 4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

### 1)我が国における予防医療の実態

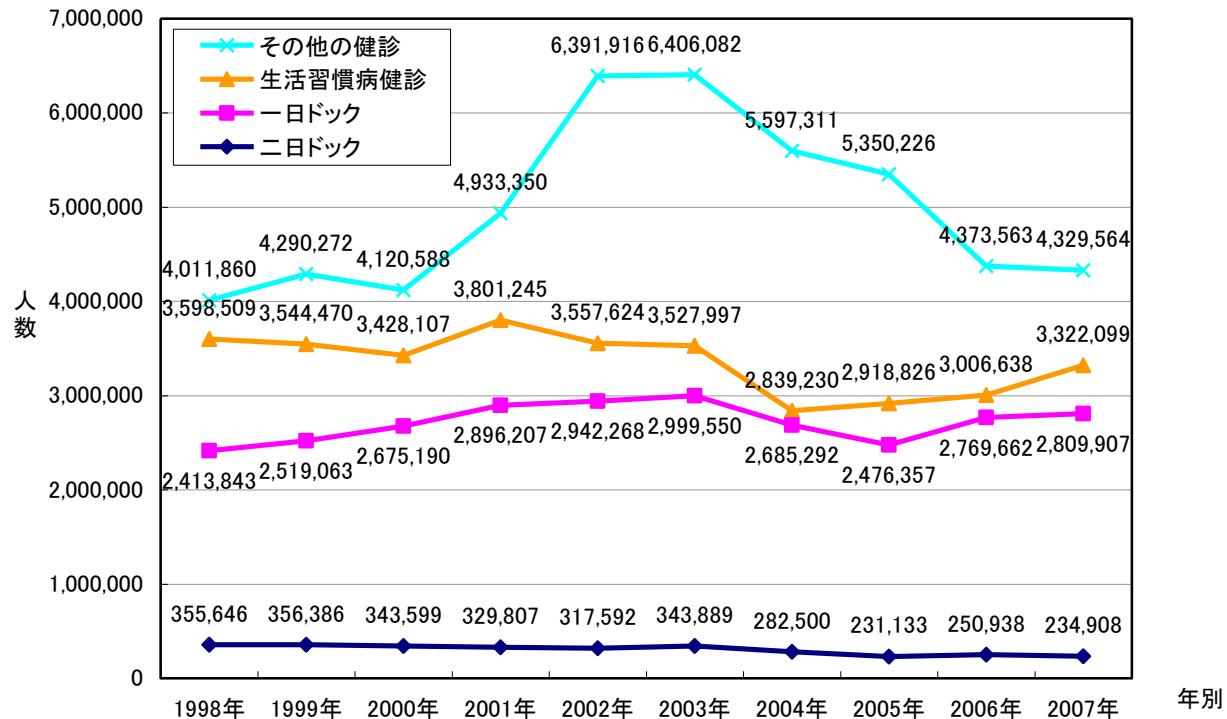
#### ②人間ドック・健診受診者の現状(1)

##### ■ 人間ドック・健診受診者数(1)

(有限責任中間法人日本人間ドック学会・社団法人日本病院会指定施設を対象とした調査結果より)

- 健診と人間ドックを併せると、2007年の受診者は、約1,070万人で、前年より約3万人増加している。
- 人間ドックについては、二日ドックの受診者数は前年に比べて減少しているものの、一日ドックの受診者数は前年より増加し、合計では、前年より約304万人増加している。生活習慣病検診の受診者数も、ここ数年増加傾向にある。

図表 最近10年間の各種人間ドック・健診受診者数の推移



(出所) 日本人間ドック学会「2007年人間ドック指定病院・施設の現況」

## 4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

### 1)我が国における予防医療の実態

#### ②人間ドック・健診受診者の現状(2)

##### ■ 人間ドック・健診受診者数(2)

(国民生活基礎調査の結果より)

- 健診や人間ドックを受診した者の数は、調査対象となった96,896人中、58,503人で、全体の約6割を占めている。
- うち、職場における健診を受けた者は、26,344人で45.0%と半数近くを占め最も多く、次いで市区町村で行う検診を受けた者が19,065人で32.6%と多かった。人間ドックを受診した者は、4,706人で8.0%であった。

図表 健診や人間ドックの受診機会の割合(20歳以上、複数回答)

性 年齢階級	総 数	健診等を受けた							健診等を受けていない	不 詳
		総数	市区町村で行う健診	職場における健診	学校における健診	人間ドック	その他	不 詳		
総 数	96,896	58,503	19,065	26,344	1,265	4,706	3,179	6,558	35,024	3,370
受診機会の割合		-	32.6%	45.0%	2.2%	8.0%	5.4%	11.2%	-	-

(出所)平成16年 国民生活基礎調査の概況(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa04/index.html>

## 4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

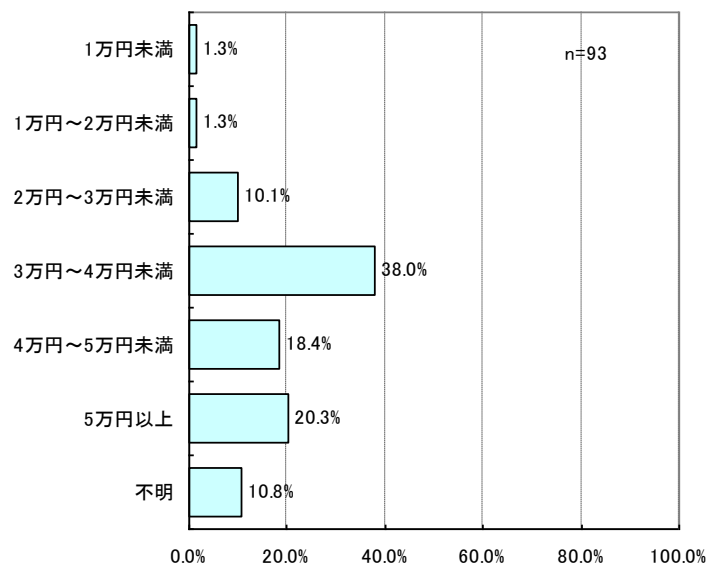
### 1)我が国における予防医療の実態

#### ②人間ドック・健診受診者の現状(3)

##### ■ 一人当たりの人間ドック費用

- 被保険者の一人当たりの人間ドック費用は、「3万円～4万円未満」が38.0%で最も多く、「5万円以上」も約2割(20.3%)であった。

図表 人間ドック費用(被保険者)



(出所) 特定健康診査・特定保険指導事業者実態調査第1巻(シードプランニング、2008年)  
※検診機関・医療機関を対象としたアンケート調査結果

## 4.我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性

### 2)我が国におけるメディカル・ツーリズムの可能性(まとめ)

---

#### ●日本のメディカル・ツーリズムにおける優位性

##### (1)提供できる医療サービスのレベルが高い

- 医療機器・設備が充実している。
  - ・ CTの保有台数は世界でトップクラスである。
- 医療サービスのレベルが高い。
  - ・ 予防医療のレベルが高く、健康づくりに対する意識が高い。
  - ・ 高齢者医療のレベルも高い。
- 人間ドックの提供体制が整っている。
  - ・ 日本において、健診や1日人間ドックの受診者は、2006年以降増加している。また、国内において一日ドック指定施設数は140、二日ドック指定施設数は480存在しており、受診施設も一定数存在している。

##### (2)中国富裕層が日本の医療サービスを高く評価しており、人間ドック受診に対する訪日ニーズが存在する

- 日本は、中国富裕層から「医療機器・設備が充実している」「医師・看護師の提供体制が整っている」という高い評価を受けており、中国富裕層が受診国を決める際に最も重要となる要件を満たしている。
- また、日本は、シンガポールやアメリカ等、医療サービスレベルが高い国と比較しても、人間ドック受診国としてのニーズが最も高く、海外受診における訪日ニーズが高いことが窺える。

#### ●今後の課題

##### (1)医療機関による認定取得に向けた検討が求められる

- 医療機関による第三者評価を取得することで、中国富裕層の海外受診における懸念を解消し、訪日ニーズを更に高められる可能性がある。

##### (2)付帯サービス提供体制の整備に向けた検討が求められる

- 海外で人間ドックを受診する中国富裕層の中には、現地観光に対する高いニーズが存在すると考えられる。よって、今後、旅行代理店との提携などで人間ドックと観光をセットにしたツアーの検討などが求められる。
- また、中国富裕層には、海外での言語対応に懸念を持つ人が多いことから、通訳やコンシェルジュの設置などの検討が求められる。